

小笠原嶋制規類聚

明治二十一年七月刊行

小笠原島廳

東京府
藏版

031205-000-8

CZ-1113-39-0-01

小笠原島制規類聚

東京府小笠原島庁

M21

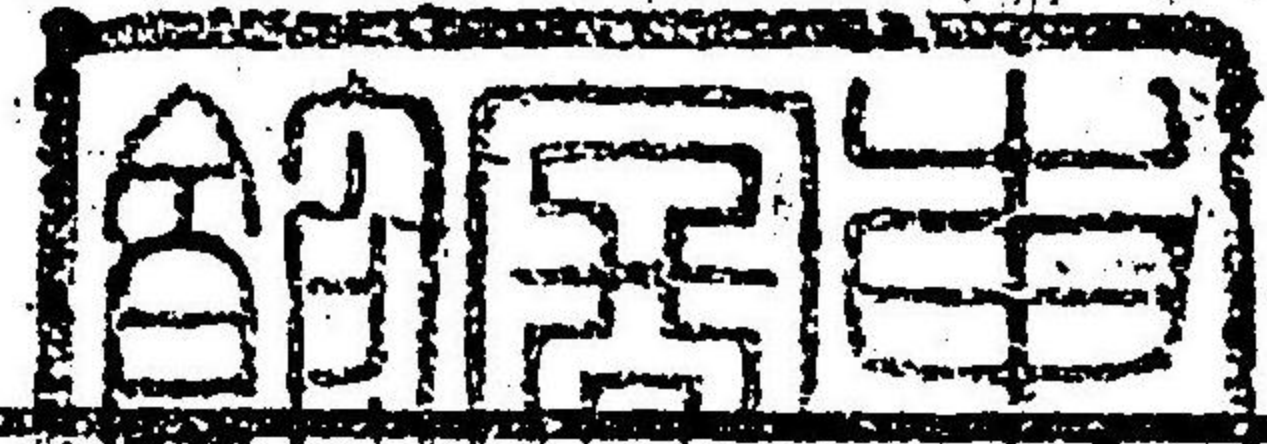
BBD-0182



No. 11063



32
1113
39-9-01



緒言

小笠原島ハ南洋ノ絶域ニ在テ内地ヲ距ル航程五百餘哩一年四回定期郵船ヲ通スルアルノミ是ヲ以テ島政上疑義ノ條欸アルモ每次經伺裁決ヲ得ルニ便ナク隨テ一般ノ廳務錯雜澁難ノ嫌ナキヲ保セス故ニ公務ニ關スル制規定例ハ勿論執務ニ要スル内外各種ノ材料ハ豫メ之ヲ整理シ以テ其用ニ供スルハ欠ク可カラサルモノナリ余常ニ之ヲ憂ワキヒ今回上京ニ際シ隨行属員萩原轍富山駒吉ニ命シ公務ノ餘暇ヲ以テ制規ノ成文ヲ蒐集シ猶ホ東京府属岡村端ヲシテ之ヲ一冊子トナシ制規類聚ト名ケ之ヲ印刷ニ附シ歸任ニ備ヘテ諸子ニ頒テ以テ執務上参照ニ便セント欲ス讀者若シ本島ノ地理風俗物産等ノ如何ヲ知ラント欲セハ嚮キニヨリ地形風俗物産等ノ如何ヲ知ラント欲セハ嚮キニ非職農商務省屬永沼織之允ニ囑托シ編述セシメタル小笠原島誌纂アリ此書ト共ニ參觀併讀セハ冀クハ本島ニ於ル古今ノ事歴ト施政

特14
534

ノ方向トヲ知得スルニ庶幾ラン歟乃チ之ヲ書シテ以テ卷端ニ題ス

明治廿一年七月

東京府島司 小野田 元瀝記

小笠原島制規類聚

第一類 管理

- 一 小笠原島ヲ東京府管轄トス
- 二 小笠原島ニ島司ヲ置ク
- 三 東京府出張所ヲ島廳ト改稱ス

第二類 職務

- 一 島司職制及等級
- 二 島司ヨリ島民ヘ對スル令達
- 三 令達ヲ發シタルキハ本府ヘ申報ス
- 四 令達結文
- 五 島司代理
- 六 島司委任條件

- 七 官吏ニ關スル委任
- 八 島司ニ於テ郡區長及戶長ノ職務ヲ管理ス
- 九 郡區長ニ於テ處分スル條件
- 十 島政狀況申報
- 十一 島廳處務細則上申
- 十二 差配方勤務心得上申
- 十三 差配方任免上申

第三類

- 一 判任官ノ定員并備給ノ定額
- 二 備給并日給支給細則
- 三 定備夫定員及給料伺
- 四 島内旅費伺

第四類 諸規則

- 一 法律執行期限
- 二 村名區分
- 三 土地規則
- 四 無檢印木材輸出
- 五 無檢印木材船積
- 六 用材林保護費伺
- 七 父島墓地
- 八 母島墓地
- 九 墓地取扱
- 十 登記法施行

- 十一 外國船取扱心得伺
 - 十二 勸業談話會準則
 - 十三 違警罪目
 - 十四 蟻龜捕獲期限
 - 十五 賭博犯處分細則
 - 十六 懲罰人取扱
 - 十七 軍籍ニアル者處分心得
 - 十八 賭博犯減免心得
 - 十九 娼妓取締規則
- 第五類 裁判**
- 一 裁判所權限
 - 二 島廳官吏ニ裁判官檢察官ノ職ヲ行ハシム

- 三 上告期限伺
- 四 裁判官ノ儀ニ付伺
- 五 裁判所權限ノ義ニ付更ニ伺

第六類 警察

- 一 警察事務東京府ヘ附セラル
 - 二 島廳吏員ヲシテ警察事務ヲ行ハシム
 - 三 島司ニ警部長ノ職ヲ行ハシム
 - 四 巡查改稱伺
 - 五 巡查服制
 - 六 巡查看守者支給品規則
- 第七類 監獄并ニ監視期限**
- 一 犯罪人送致手續

- 二 假出獄及假免伺
- 三 看守者ノ儀伺
- 四 監視期限
- 五 在監人建白

第八類 地券及租稅

- 一 免稅伺
- 二 徵稅令
- 三 地券
- 四 地券取扱

第九類 郵便

- 一 郵便爲替及貯金
- 二 郵便爲替貯金保管

- 三 貯金所設置
- 四 貨幣封入郵便物取扱

第十類 學校 衛生

- 一 學校敷地
- 二 藥價徴収上申
- 三 傳染病豫防費
- 四 衛生費

第十一類 定期船

- 一 帆船ヲ汽船ニ變換費伺
- 二 定期帆船ヲ汽船ニ改ム
- 三 定期船
- 四 母島へ汽船寄港伺

参考 郵船會社命令書

第十二類 會議所

一 會議所事務島廳ニテ取扱

参考 會議所廢止

全一 會議所中止ノ儀ニ付具申

第十三類 雜

一 難破船

二 島會社

三 豫備米

四 府知事巡廻ノ節具申セシ島況

例言

○此書ハ特ニ小笠原島廳ニ關スル制規定例ノミチ蒐録シタルモノニシテ一般ノ法律規則例之ヘハ戶籍法徵兵令等ノ如キハ省キテ載セス然レモ島政ニ關シ裁定セラレタル部類ハ時トシテ採録スルヲアリ

○書中勉メテ現行ノ制規定例ヲ蒐録シ已ニ廢止或ハ改正セラレタル舊文ハ省略スト雖モ参考照合ノ爲メ必要ナル部類ノミ時トシテ舉ルヲアリ

編者記

小笠原島制規類聚

第一類 管理

太政官布告第四十四號 明治十三年十月八日

(一) 内務省所轄小笠原島ヲ東京府管轄ニ被屬候條此旨布告候事

閣令第二十八號 明治十九年十月六日

(二) 勅令第五十四號地方官々制第四十六條ニ依リ東京府管下小笠原島ニ島司ヲ置シ

本府告示第百〇七號 明治十九年十一月四日

(三) 小笠原島東京府出張所ヲ東京府小笠原島島廳ト改稱ス

第二類 職務

勅令第五十四號 明治十九年七月

(拔萃) 嶋地

(一)第四十六條長崎縣鹿兒島縣其他今後指定セラルヘキ府縣ニ於テ
島司ヲ置キ部内行政事務ヲ掌理シ知事ノ委任スル條項便宜之ヲ施
行スルコトヲ得

第四十七條島司ハ奏任三等以下トス

本府達 明治二十年
一月二十日

(二)島嶼ハ一般ノ制ニ據ル能ハサルヲ以テ其制ヲ異ニシ政務ヲシテ
治不カラシメンカ爲メニ特ニ島司ヲ置キ部内ノ行政事務ヲ管理セ
シメラレ候儀ニ付其島民ニ對シハ令達ヲ發スルコトヲ得然レモ其
令達ハ裁制ヲ附スルコトヲ得ス若シ裁制ヲ要スヘキモノハ府令トナ
シ知事ヨリ之ヲ發スヘキヲ以テ嗣後裁制ヲ要スルモノアルキハ當
廳ヘ具狀スヘシ

本府達 明治二十年
一月廿日

(三)嶋司ヨリ島民ニ對シ令達ヲ發シタルキハ定期便毎ニ當廳ニ申報
スヘシ

本府達 明治二十年
二月五日

(四)島司ヨリ島民ニ對シ發スヘキ令達ハ達トナシ初行ノ上部ニ番号
ヲ附シ結文ヲ要セス (右相達ス等ノ語ヲ
記セザルヲ云フ)

本府達 明治二十年
二月五日

(五)島司島地外ニ出張等不得止場合ニ於テハ在廳上席ノ屬官ヲ以テ
事務ヲ代理セシムルコトヲ得

本府令第八號 明治二十年
二月九日

(六)當廳ノ事務中小笠原島ニ係ル左ノ條項ハ特ニ東京府島司ニ委任
ス

一土族ノ平民籍へ編入願ノ事

- 二 廢嫡願ノ事
- 三 廢戸願ノ事
- 四 失踪者ノ家名ヲ相續シ若クハ失踪者ノ子ヲ他ノ養子トナシ又ハ出嫁セシメ若クハ失踪者ノ妻又ハ養子ヲ離縁スル願ノ事
- 五 失踪者ノ養子又ハ入夫ヲ離縁スル願ノ事
- 六 公權剝奪ノ爲メ士族ノ稱ヲ失フタルモノハ跡襲族願ノ事
- 七 改名願ノ事
- 八 開墾願ヲ許可シ及地所ヲ下渡ス事
- 九 土石砂利ヲ掘取及拂下ル事
但修路治水ニ害アルモノハ此限ニアラス
- 十 官有ノ沼池等埋立ノ事
但工事ノ一町歩以上ニ渉ルモノハ此限ニアラス

- 十一 養魚其他殖産ノ爲メ官有池沼ヲ貸渡ス事
- 十二 五ヶ年以内ノ期限ニテ相當ノ地料ヲ徴シ官有地ヲ貸渡ス事
- 十三 官有地拜借人所有ノ建物賣却讓與書入質入與印ノ事
- 十四 島民所用ノ爲メ官有地ノ樹木伐採願ノ事
- 十五 鳥獸獵願ノ事
- 十六 賣藥請賣願ノ事
- 十七 賣藥行商願ノ事
- 十八 賭博犯處分ノ事
- 十九 娼妓取締規則ニ違犯ノ者處分ノ事
- 二十 犯罪又ハ犯則ニ仍リ没収シタル物件ヲ公賣處分ノ事
- 二十一 遺失物處分ノ事
- 二十二 漂着物處分ノ事

二十三 内國難破船ニ關スル事

二十四 恤救規則心得第八條ニ據リ一家數人救助ノ事

二十五 掌理ノ事項ニ關シテ他府縣稅關裁判所等ノ間ニ照會往復

スル事

本府内訓第三號 明治二十年
二月九日

(七)左ノ條項其廳へ委任候條處分ノ後報告スヘシ

一 在勤官吏ヲ指揮監督スル事

一 廳中處務細則ヲ定ムル事

一 月俸三分ノ一ニ超ヘサル額ヲ以テ在勤官吏ノ特別勸勞アルモ

ノヲ賞與スル事

一 在勤官吏ヲ他方へ出張セシメ又ハ除服ヲ命スル事

一 在勤官吏ノ歸省養痾湯治願ノ事

一 俸給豫算定額内ニ於テ月俸拾五圓以下ノ雇員ヲ使用スル事

本府内訓第五號 明治二十年
二月九日

(八)小笠原嶋ニ係ル左ノ事務ハ其專任ノ官吏ヲ置カサルヲ以テ東京

府島司ニ於テ管理スル儀ト心得ヘシ

一 郡區長掌理ノ事務

一 戶長ノ職務

本府内訓第六號 明治二十年
二月九日

(九)郡區長ノ事務島司ニ於テ掌理スルニ付テハ郡區長ニ於テ處分ノ

後當廳ニ報告スルヲ得ヘキモノ左ノ通りニ候條此旨心得ヘシ

一 國稅地方稅備荒儲蓄金區町村費及徵發令ニ依リ負擔スヘキ費

用不納者處分ノ事

二 逃亡死亡絶家ノ財産處分ノ事

- 三 官有地ノ倒木枯木ヲ賣却スル事
 - 四 電線道路田畑水利ニ障碍アル官有樹木ヲ伐採スル事
 - 五 河岸地借地檢査ノ事
 - 六 印紙賣捌願ノ事
 - 七 地方稅支辨ニ係ル道路堤防急破修繕ノ事
 - 八 非常水害防禦ノ爲メ三等官林竹木伐採ノ事
 - 九 地券書換願ノ事
 - 十 社寺什物取締ノ事
 - 十一 府縣社以下并寺院境内枯損竹木伐採及竹木栽培願ノ事
 - 十二 度量衡檢査ノ事
 - 十三 諸貸下金徵收處分ノ事
- 右ノ外法律命令ヲ以テ委任シ及知事ヨリ特ニ任スル條件

本府達第三十一號 明治十九年十一月二十二日

(十) 其島ノ儀ハ内地ト交通稀疎ナルヲ以テ定期郵便ヲ俟ツノ外臨機
 須要アルニ方リ消息ヲ通スルノ道ナシ因テ毎定期便島内政治ノ狀
 況ヲ申報スルハ欠如スヘカラサル要件ニ有之候處從來僅ニ日誌ノ
 謄本ヲ出スノミニシテ委曲申報ノ手續ナキカ爲メ往々隔靴搔痒ノ
 憾アリ就テハ爾後島内政治ニ關スル百般ノ狀況ヲ詳委シ毎定期便
 ヲ以テ之ヲ申報スヘシ

但別ニ報告ノ式アルモノハ本文ノ申報ニ關セス式ニ據リ報告ス

(十一) 島廳處務細則上申 明治二十年八月五日

第二章 分科組織

第一條 廳中ノ事務ヲ分テ四科トシ之ヲ掌理セシム

第一科 勸業 地籍

第二科 文書 外務 學務 衛生並ニ醫務

第三科 主計 用度 土木

第四科 警察 監獄

第二條 各科ニ科長一人ヲ置キ各分掌ノ事務ヲ整理セシム

第三條 第一科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌トル

第一款 勸業

一 各試驗場及ヒ製造所ヲ管理スル事

一 農業上有功者褒賞ニ關スル事

一 農業組合ニ關スル事

一 島内商工業ニ關スル事

一 水産牧畜ニ關スル事

一 土地開墾ニ關スル事

一 山林ニ關スル事

一 植物蟲害驅除ニ關スル事

一 鑛物及土石堀採ニ關スル事

一 農業ニ係ル資金又ハ器械農具ヲ貸與スル事

一 輸出入物品檢印ノ事

一 物産上ニ關スル通信及統計表ノ事

第二款 地籍

一 土地ニ關スル事

一 氣象臺管理ノ事

一 官有地貸渡シ拂下及ヒ民有地買上并ニ土地ニ關スル事

一 開墾地損地潰シ地廢シ地調査ノ事

一 捕魚製鹽地ニ關スル事

第四條 第三科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

第一款 文書

一 廳中ノ條規例則ニ關スル事

一 官吏ノ進退賞與懲戒ニ關スル事

一 官吏ノ履歷編成恩給調査及ヒ諸願何届ニ關スル事

一 廳中儀式ニ關スル事

一 褒賞條例ニ關スル事

一 法律命令及府令諸達等ヲ揭示又ハ下付回送ニ係ル事

一 法律命令諸達ノ編輯

一 島廳日誌及小笠原史ノ編輯

一 島廳一切ノ圖書記録ノ管守

一 島廳報告書ノ調製

一 島内統計表調製ノ事

一 會議所ニ係ル事

一 戶籍ニ關スル事

一 文書受付ノ事

一 他ノ主掌ニ屬セサル事項

第二款 外務

一 外國船入港ニ係ル事

一 通辨翻譯ノ事

一 信號旗ノ事

一 外國人上陸止宿ニ係ル事

一 島民外國船乗込ニ係ル事

第三款 學務

- 一 學校及ヒ書籍ニ關スル事
- 一 教育上ノ視察
- 一 學事獎勵賞與ニ關スル事
- 一 學齡兒童就學ニ關スル事
- 一 學事ニ關スル年報及諸表ノ事
- 一 第四款 衛生并ニ醫務
 - 一 土地家屋飲食物等ニ關スル衛生上利害ノ調査
 - 一 種痘ニ關スル事
 - 一 傳染病流行病地方病及ヒ人体ニ障害アル家畜傳染病ニ關スル事
- 一 衛生上年報諸表ノ調製

- 一 内外船舶入港ノ節傳染病流行病有無臨檢ニ關スル事
- 一 診察調劑種痘施行及黴毒檢査ニ關スル事
- 一 開業醫産婆試験ニ關スル事
- 一 藥價ヲ徵收シ及ヒ治療器械ヲ保存スル事

第五條 第二科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌トル

第一款 主計

- 一 金錢收入支出ヲ調査スル事
- 一 歳入出豫算決算ニ關スル事
- 一 島民共有金ニ關スル事
- 一 歳入ニ係ル收納ノ事
- 一 貸付金及預ケ金ノ抵當品ニ關スル事
- 一 諸工事受負身元保証金ニ關スル事

- 一 現金受拂ノ事
- 一 金錢出納諸帳簿ノ登記ニ關スル事
- 第二款 用度
 - 一 諸物品購求及ヒ管守ニ關スル事
 - 一 廳中取締及掃除ニ關スル事
 - 一 俸給及ヒ諸給廳費支出ニ關スル事
 - 一 郵送文書并ニ發着物件ニ關スル事
 - 一 非常ノ際食料物件調度ニ關スル事
 - 一 豫備米ニ關スル事
 - 一 内外國人接待ニ關スル事
 - 一 官舎及ヒ建物ノ監守ニ關スル事
 - 一 物品拂下ニ關スル事

一 給仕水農夫ニ關スル事

第三款 土木

- 一 道路橋梁堤防ノ工事ニ關スル事
- 一 廳中及官有建物ノ工事ニ關スル事
- 一 渡船ニ關スル事

第六條 第四科ニ於テハ左ノ事務ヲ掌トル

第一款 警察

- 一 法律命令ノ行否及ヒ島内一般情況ノ視察ニ關スル事
- 一 難破船漂流人ニ關スル事
- 一 賭博犯處分ノ事
- 一 密賣淫取締及處分ノ事
- 一 貸座敷娼妓取締及處分ノ事

- 一 遺失物ニ關スル事
 - 一 變死傷ノ檢視ニ關スル事
 - 一 失踪者瘋癲者棄兒迷兒ニ關スル事
 - 一 銃獵取締ニ關スル事
 - 一 出入船舶及輸出物品臨檢ニ關スル事
 - 一 火災消防ノ事
 - 一 古物商取締ノ事
 - 一 戸口調査ノ事
 - 一 盜難訴ニ關スル事
 - 一 警察上ニ關スル諸表調製ノ事
- 第二款 監獄
- 一 在監者ノ名籍刑期ノ計算ヲ調理スル事

- 一 服役科定工錢料定ノ標準ヲ調理スル事
- 一 製品ノ販賣及ヒ在監者給與ニ關スル事
- 一 監獄ニ關スル諸表調製ノ事

第二章 處務順序

第七條 凡當廳ニ到達スル文書ハ第二科長其書類ヲ査閲シ受付掛主任ヲシテ收受件名簿ニ登記セシメ番號ヲ付シ速ニ各科長ニ送致スヘシ但事重要ナリト認ムルハ直チニ島司ニ出シ指揮ニ依リ各主科長ニ送致スルモノトス

第八條 第二科受付掛主任ハ尋常ノ件ト雖モ極メテ文書ノ配付ヲ速カナラシメ其事急務若クハ重要ニ係ル命令照會又ハ島司ノ親展ニ係ルモノハ直チニ島司ニ呈シ後第二科長ニ申報スルヲ得

第九條 各科長ハ毎日收受シタル其ノ書類ヲ僚員ニ配付シテ其ノ處

分法ヲ授ケ査閲ノ後之ヲ島司ニ呈スヘシ

第十條 各科ニ於テ島司ヨリ指圖ヲ受ケタル事若シ時宜ニ適セサル
カ遺漏等ノコアリト思フトキハ之ヲ島司ニ申出テ處置ノ遺漏ナキ
様注意スヘシ

第十一條 凡ソ機密文書調査ノ命ヲ受ケタルモノハ通常ノ手續ニ依
ルヲ要セス便宜事ニ從ヒ総テ漏泄セサル様注意處理スヘシ

第十二條 凡ソ文書ノ起草若クハ判決事件ノ執行ハ翌日ヲ過クルヲ
得ス若シ數科ニ連帶シ又ハ實地ヲ踏査シ又ハ圖面券冊ヲナシタル
モノ、淨寫等總テ時日ヲ要スルノ見込アルキハ其時日ヲ豫定シ科
長ヨリ島司ニ陳告シテ允許ヲ受クヘシ

第十三條 淨寫濟送達ノ文書ハ受付主任原書ト校合シ日子及ヒ番號
ヲ記入シ退廳時限迄ニ來ルモノハ即日之ヲ發送スヘシ

第十四條 金員ヲ受領シ若クハ之ヲ發送セントスルキハ其金額事由
科掛及ヒ主任ノ名ヲ記シテ第三科長ニ通知スヘシ

第十五條 郵送又ハ使丁ヲ以テ送付スル文書ハ各科ヨリ受付主任へ
送付シ受付掛ハ之ヲ取纏メ第三科用度主任ニ送致シ發送スルモノ
トス

第十六條 官印ハ第二科長金庫ノ鍵ハ出納主任官ニ於テ主管スヘシ

第三章 服務心得

第十七條 各員參廳シタルキハ各自ノ認印ヲ勸怠簿ニ押スヘシ若シ
疾病事故アツテ不參スルモノハ參廳時限迄ニ其旨ヲ届出ツヘシ且
自己擔任ノ事件ニシテ其日施行スヘキモノ若クハ急務ニ係ルモノ
等ハ遺漏ナク同僚ニ申繼キ事務ノ沮滯ナキヲ要ス尤モ欠勤十五日
以上ニ及ブキハ醫接ヲ添ヘ更ニ届出ツヘシ

第十八條 忌服ヲ受ケタルキハ定期ノ日數ヲ記シ又タ父母ノ祭日ニ於ル時ハ其旨ヲ記シ届書ヲ出スヘシ

第十九條 各員參應退散ノ時限ハ時々之ヲ定ムヘシト雖モ繁忙ノ場合ニ於テハ時間前後ハ勿論休日夜間ト雖モ參應シテ其事ニ服スヘシ

第二十條 退應時限ハ擊柝ヲ以テ報スルモノトス

第二十一條 公務ニ依リ遅參又ハ不參シタル者アルキハ其旨届出ヘシ

第二十二條 參應中止ヲ得サル事故アリテ時間前退出セントスル者ハ上主ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條 各員日々退出ノ時ハ取扱ノ書類物品ヲ取纏メ散亂セサル様嚴重取締スヘシ

第二十四條 所管ノ書類ハ公務ノ外島司ノ許可ヲ得スシテ他人ニ示シ又ハ寫帖ヲ與フルコトヲ得ス

第二十五條 近火其他非常ノ事アル時ハ島廳ニ參集シ島司ノ指揮ヲ待ツヘシ

第二十六條 火ノ元ハ勿論構内ノ取締ハ巡查ニ於テ注意スヘシ

第二十七條 應接所備品等ハ用度掛ニ於テ一週間ニ一回以上之ヲ檢査スヘシ

(十二) 差配方勤務心得

明治二十年十一月二日

第一條 差配方ハ隔日ニ出勤シ(大村ハ大村警察署扇浦ハ扇浦警察分署沖村ハ沖村警察分署)其職務ニ従事スヘシ但繁忙ノ場合ニ於テハ休日夜間ト雖モ其事ニ服スヘシ

第二條 執務上差異ナキカ爲ノ毎金曜日は島廳へ會集スヘシ

第三條 大村差配方ニ屬スル部分左ノ如シ

- 一 大村
- 二 宮濱
- 三 清瀬
- 四 奥村
- 五 屏風谷
- 六 釣濱
- 七 西島
- 八 瓢島
- 九 兄島
- 十 弟島
- 十一 東島
- 十二 嫁島
- 十三 煤島
- 十四 婿島

第四條 扇浦差配方ニ屬スル部分左ノ如シ

- 一 扇浦
- 二 境浦
- 三 初寐浦
- 四 洲崎村
- 五 小曲村
- 六 二子村
- 七 長谷
- 八 袋澤
- 九 小濱
- 十 南袋澤
- 十一 南崎
- 十二 巽港
- 十三 南島
- 十四 野羊島

第五條 沖村差配方ニ屬スル部分左ノ如シ

- 一 母島并其屬島一面

第六條 差配方職務概目ヲ定ムル左ノ如シ

- 一 戶籍下調ノ事

二 地所下調ノ事

三 戶籍地所木材其他成規アル願届書ニ奥印ノ事

四 學齡兒ヲ調査シ其就學ヲ勸奨スル事

五 農業ノ實況ヲ調査シ毎月分ヲ翌月一日ニ差出ス事

六 輸出入物品及其員數代價ヲ調査シ定期船出帆後十五日以内ニ差出ス事

七 部内人民ノ印章簿ヲ調製スル事

八 未痘兒ヲ調査シ接種ヲ勸奨スル事

九 行倒人變死人其他事變アルキハ警察署へ報知ノ事

十 難破船及漂流船アルキ警察署へ報知ノ事

十一 天災又ハ非常ノ難ニ罹リ目下窮迫ノ者ヲ具申スル事

十二 孝子節婦其他奇特篤行ノ者ヲ具申スル事

十三 地所建物船舶質入書入并ニ賣買讓與ニ係ル願書ニ奥印ノ事

以上項目ノ外特ニ島司ノ命令ニ從ヒ其事ニ從フモノトス

第七條 凡ソ收受スル處ノ文書ハ其人名件目年月日ヲ簿冊ニ記シ毎月一日其前月ノ件數ヲ届出ツヘシ

第八條 凡ソ收受スル處ノ文書奥印ヲ要スル者ハ本人ヲ爲待置直チニ之ヲ與フヘシ

第九條 凡ソ奥印ヲ願出ル者アルキハ事ノ許否如何ヲ憶度セス直チニ之ヲ與フヘシ

但書式アルモノ若シクハ宛名等ニ誤アルモノハ丁嚙ニ之ヲ指示スヘシ

第十條 凡ソ奥書シタル文書ニシテ事ニ支障アルカ若シクハ別ニ意

見アルキハ即時書面又ハ口頭ヲ以テ具申スヘシ

第十一條 第六條第四項及第八項ニ依リ無謂其勸奨ニ應セサル者ハ狀ヲ具ヘテ指揮ヲ請フヘシ

第十二條 第六條第五項ニ依リ開墾ノ地荒廢ニ傾クノ狀況アル者ハ懇篤獎勵ヲ加フヘシ

差配方任免ノ義ニ付上申 明治二十年五月十日

(十三) 當地差配方之義ハ最寄住民ヲ撰舉セシメ其中ニ就キ相當ト認ムル者へ申付來候處元來右俸給ハ官ヨリ之ヲ支給スル者ナレハ内地戸長ト同ク當廳ニ於テ直チニ申付候方允當ナル次第ニ可有之且人民ヲシテ撰舉セシノ候テハ差配方ニ於テ自ラ公撰ニ因リ命セラレタル者ト思惟シ其間往々幾多ノ弊害ヲ醸成スルノ恐レモ可有之ト存候ニ付自今當廳ニ於テ直

(別紙)

定備夫給料支給細則

- 第一項 月給雇員ハ任免トモ日割ヲ以テ之ヲ支給ス
- 第二項 日給雇員ハ大祭祝日日曜日及ヒ忌引父母ノ祭日ハ之ヲ支給シ其他ハ一切支給セサルモノトス
- 第三項 臨時雇員ハ現勤日數ニ依リ支給スルモノトス
- 第四項 右ニ掲クルモノ、外ハ総テ本年達第一三四九號雇員俸給并ニ日給支給細則ノ例ニ據ル

定備夫定員并ニ給料額表

名稱	定員	給額	備考
水夫	五名		

小頭	一名	一等 日給金 四拾錢 二等 日給金 三拾五錢	
舟子	四名	一等 日給金 三拾五錢 二等 日給金 三拾錢	
		三等 日給金 貳拾五錢 四等 日給金 貳拾錢	
農夫	四名		
小頭	一名	前 全 斷	
農夫	三名	全	第一第二植物試驗場ニ各一名ヲ分擔シ他二名ハ補助セシムル配置ナリ
工夫	二名		
鍛冶工	一名	一等 日給金 三拾五錢 二等 日給金 三拾錢	平素第一試驗場ニ住シ農具其他ノ器具ヲ新調修理シ余暇アルハ人民ノ依頼ヲ受クルコトヲ得セシム
大工	一名	前 全 斷	農具其他器械等新調修理シ公務ノ余暇ニ人民ノ依頼ヲ受クルコトヲ得セシム

臨時雇夫	○	日給金五拾錢以下	小使 五名				本廳三名母島一名監倉一名ヲ配置ス
			一等	二等	三等	四等	
			月給金	六圓	五圓	五圓	拾錢
			給仕 一名	一等	四圓	二等	三圓
				四等	四圓	三等	五圓
				二等	三圓	一等	四圓
				本廳ニ限ル			
			技術ニ涉ルモノハ三拾錢以上其他ハ三拾錢以下ヲ使用スルヲ				

指令第六三二四號

書面上申之趣認可候事

島内旅費

明治二十年六月 同
全年十月二十一日指令

(四)客歲六月中内國旅費御改定相成候處尙閣令第三十四號ヲ以テ該

附則御達相成候得共自今管外ニ準スヘキ旅費額御制定無之然ルニ
當小笠原嶋管内ノ地ハ夥シク山間僻地ノミニシテ里數僅少ナルモ
開墾地檢査等總テ一日ヲ費ス如キ場合加フルニ群島巡迴ノ節ハ順
風想測ノ上出張スルモ數時間ニシテ忽チ風勢ヲ變シ動モスレハ人
家無之孤嶋ニ滞留ヲナスコアツテ全ク三食ヲ用意ナサ、ルモノナ
ク或ハ三日或ハ四五日間ノ食糧ヲ持參セサルヲ得サル場合然ルニ
巡迴渡島ニハ官有ノ小舟并(カノ一船ト稱シ一ツ)水夫ナレハ仮
令幾數里アルモ成規アリテ日當其他ヲ支給スルコト能ハス實ニ薄給
ノ官吏水夫等内地トハ異ナリ物價非常ノ高直ナルヲ以テ大ニ困難
ヲ極メ候ハ傍觀ニ不忍ヲ以テ陸路官船ト雖モ壹里ニ付拾五錢并ニ
日當トシテ一日金五拾錢(官吏ニ支給スルモノ)ツ、水夫其他ハ壹里ニ付金
八錢并ニ一日金三拾錢ヲ日當トシテ給與申度候條至急御認許相成

度此段及稟請候也

(指令)第八九六九號

書面稟請之趣官吏ハ客歲閣令第三拾四號内國旅費規則附例ニ據リ
雇員ハ客歲内務省令第十一號甲表管外ノ額水夫其他ハ同令乙號表
ニ據リ來ル十一月一日ヨリ支給スヘシ

但定額ノ旅費ヲ適宜減少セントスル時ハ其旨申出ヘシ

巡查旅費

明治二十年五月十六日同
全年六月廿日指令

(五) 客歲十一月中島地警察吏ノ儀ハ内地同様巡查ト公稱致度旨上
申候處既ニ御認許相成候ニ付テハ右ニ係ル旅費ノ儀ハ内務省令
第十一號ニ依リ支給致シ可然ト存候得共爲念相伺候條至急何分
ノ御指揮相成度此段上申候也

(指令)第六六〇七號

書面伺之通り

第四類 諸規則

布告布達施行期限

明治十七年五月廿三日
本府達

(一) 布告布達施行期限ノ義ハ明治十六年第十七號布告ヲ以テ島地ハ
所轄郡役所ニ到達ノ翌日ヨリ起算スト有之候處其出張所ヲ郡役
所ト見做シ到達ノ翌日ヨリ起算シ母島ハ出張所ト海路ヲ隔テ候
ニ付其事務所ニ到達ノ翌日ヨリ起算候條島内ヘ告示スヘシ此旨
相達候事

本府令第二十四号

明治二十一年
六月二十二日

(二) 小笠原島之内父島母島村名ヲ變更スル左ノ如シ

一 父島ノ内大村奥村宮ノ濱屏風谷旭山ヲ合併シ大村
一 扇浦、ニタ子
村、洲崎、小曲村、長谷、初寝浦、東海岸ヲ合併シ扇村
一 北袋澤村、南袋澤

村、南崎、巽港、ヲ合併シ袋澤村ト稱ス

一母島ノ内沖村、脇濱、西濱、南崎ヲ合併シ沖村ト稱ス

北村ト稱ス

本府令第四十二號 明治二十年七月三十日

(三) 小笠原島渡航者並土地規則左ノ通相定メ本年十一月一日ヨリ施行ス

小笠原島渡航者並土地規則

第一章渡航届

第一條 小笠原島ニ來ル者ハ着島翌日迄ニ小笠原島廳ヘ族籍氏名年齢職業及渡航ノ旨趣ヲ記シ届出ヘシ

但轉籍若クハ寄留スル者ハ其届書ニ本文ノ旨趣ヲ記入スヘシ

第二條 小笠原島ヲ去ル者ハ前日迄ニ第一條本文ノ手續ヲ爲スヘシ

シ

但轉籍若クハ寄留地ヲ去ルモノハ第一條但書ニ據ルヘシ

第二章 土地下渡及拂下

第三條 滿二十歳以上ノ男子ニシテ島内ニ移住若クハ寄留スルモノニ限り其願ニ依リ一戸ニ付宅地トスヘキモノハ二反歩以内耕地トスヘキモノハ一回ニ付一町五反歩以内ヲ下付スヘシ其耕地ハ開墾落成(鐵入植付シタ
ルモノヲ云フ)ノ上幾回モ願出ツルヲ得ルト雖モ

其下付スル土地ハ從來下付シタル分トヲ通算シテ三町歩(風潮除キ)ニ限り其他ハ總テ相當代價(未墾地ハ素地
相當代價)ヲ以テ拂下ヘシ

但シ宅地ハ一戸ニ付一個所ニ限ルト雖モ殖産事業ニ係リ本文ノ制限ヲ増加シ又ハ其居住地外ノ島地ニ之ヲ設ケントスルモノハ其ノ事情ニヨリ許可スルコトアルヘシ

第四條 開墾地ノ下渡又ハ拂下ヲ請フモノハ其書面ニ地名坪數並ニ事業ノ目的着手ノ順序及ヒ其開墾落成期限ヲ詳記シ圖面ヲ添ヘ先其貸下チ島廳へ願出可シ但本文ノ書面ニハ相當風災除ノ區畫ヲ記入スヘシ

島廳ニ於テ實地ヲ検査シ農具及ヒ食料等ヲ携帶シ其方法確實ニシテ一戸ヲ爲シ得ル者ト認ムルキハ左ニ記載シタル部分ヲ除キ之ヲ許可スヘシ

- 一 用材林
- 一 水源涵養土砂扞止ニ係ル部分
- 一 海岸風潮除ニ係ル部分

第五條 開墾地ノ風災除ケニハ樹木ヲ存置又ハ植付クヘシ但家屋材又ハ薪炭用ノ爲メ該樹木ノ伐採ヲ要シ島廳へ出願ス

ルキハ検査シ上許可スルコトアルヘシ

第六條 開墾落成期限ハ貸下許可ノ日ヨリ滿一箇年以内トシ其期限ニ至ルキハ實地検査ヲ受クヘシ若シ落成セサルキハ其部分ニ係ル貸下ノ許可ハ無効タルヘシ但此場合ニ於テハ其事業ノ爲メ既ニ費シタル費用アルモ之ヲ辨償セス

天災時變其他止ムヲ得サル事故アリテ期限内ニ落成セサルモノアルキハ延期ヲ許スコトアルヘシ

第七條 再次以上開墾地ノ下渡ヲ請求スルモ其段別前後通計第三條ニ定メタル制限以内ナルキハ之ヲ許可スヘシト雖モ曩ニ下付シタル土地ノ實況ヲ検査シ許可セサルコトアルヘシ

第八條 下渡又ハ拂下ケノ爲メ貸渡シタル土地ハ其開墾落成ニ至リ民有地トシテ假地券狀ヲ授與スヘシ

島廳ニ於テハ地券臺帳ヲ備置キ地券ノ授與及ヒ賣買讓渡ノ地券書換ヲ爲スヘシ

第九條 開墾地拂下ニ係ルモノハ假地券下付ノ際其代金ヲ納ムヘシ若シ之ヲ納メサルキハ其許可ハ無効タルヘシ

第十條 所有地ヲ賣買又ハ讓渡シタルモノハ雙方連署ヲ以テ島廳へ願出地券書換ヲ受クヘシ

第十一條 地所ヲ所有スルモノ及ヒ官有地ヲ借用スルモノニシテ本島外へ移轉寄留又ハ旅行スルキハ其代理人ヲ置キ委任狀寫ヲ添へ雙方連署ヲ以テ東京府島司へ届出地券ハ代理人ヲシテ管守セシム可シ

第十二條 所有地ヲ滿二箇年間荒蕪ニ附セシメ及ヒ第十一條ノ手續ヲ爲サスシテ本島外へ移轉又ハ旅行シ滿二箇年ヲ經過セシモ

ノハ其地所ヲ取揚ケ其地券ハ無効タルヘシ

但此場合ニ於テハ第六條但書ヲ適用ス

第三章 特別貸下

第十三條 移住又ハ寄留者ニシテ海産乾場養魚場牧場倉庫揚場及船敷場等ニ供セントスルモノニ限リ官有地ヲ貸渡スヘシ之ヲ特別貸下ト稱ス

第十四條 特別貸下ヲ請ハントスルモノハ第四條ノ手續ニ據ルヘシ

但其願書（開墾落成期限ヲ付）ニハ借地期限並ニ相當ノ借地料ヲ付記スヘシ

第十五條 特別貸下ノ許可ヲ得タルキハ其指定ノ時日ニ於テ借地料ヲ納ムヘシ若シ期日ニ至リ之ヲ納メサルキハ其許可ハ無効ク

ルヘシ
第十六條 特別貸下年限ハ滿五箇年以内トス滿期後尙ホ繼續願ヲ爲スヲ得ルト雖モ其事業ノ目的確實ナラスト認ムルキハ之ヲ許可セス

第十七條 貸渡地ハ官用ノ節ハ貸渡年期内ト雖モ之ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第十八條 特別貸下地ニ宅地又ハ耕地ヲ設ケントスルモノハ第三條ニ據リ之ヲ許可スヘシ

第十九條 特別貸下地ハ許可ノ日ヨリ滿六ヶ月以内ニ着手シ毎年四回其實況ヲ島廳ヘ申報スヘシ若シ期限ニ至リ着手セサルモノハ其許可ハ無効タルヘシ

第四章 生木并枯損木下渡拂下

第二十條 官有生木并枯損木ハ移住又ハ寄留者ニシテ嶋内ニ於テ左

- ノ所用ニ供スルモノニ限り之ヲ下渡スヘシ
- 一家屋又ハ船舶用材
- 一農工業上必需ノ用材

前項所用ニ供スルモノ、外ハ枯損木ニ限り相當代價ヲ以テ之ヲ拂下シヘシ

第二十一條 生木又ハ枯損木ノ下渡若クハ拂下ヲ請ハントスル者ハ其書面ニ伐採地及ヒ樹木員數所用ノ目的等ヲ詳記シ島廳ヘ願出ツヘシ

但拂下ニ係ルモノハ其相當代價ヲ付記スヘシ
島廳ハ實地ヲ檢査シ第四條ノ各項ニ記載シタルモノヲ除キ其拂下ニ係ルモノハ代價適當ト認ムルキハ之ヲ許可スヘシ

第二十二條 生木又ハ枯損木ノ下渡許可ヲ得タル者ハ第二十一條範圍ノ外ニ之ヲ使用スルヲ得ス

第二十三條 枯損木ノ拂下許可ヲ得タル者其代金ヲ納ムルハ第十五條ニ據ルヘシ

第二十四條 生木又ハ枯損木ノ下渡若クハ拂下ノ許可ヲ得タル者ハ其日ヨリ三十日以内ニ伐採スヘシ若シ此期限ヲ經過シタルキハ其許可ハ無効タルヘシ

但無効タル場合ニ於テハ其日ヨリ五日以内ニ前納ノ代金ヲ請求スルキハ之ヲ返付スヘシ

第二十五條 開墾地ニ於テ伐採シタル樹本及ヒ拂下ヲ得タル枯損木ヲ輸出セントスル者ハ伐採ノ日ヨリ五十日以内ニ成材ノ上島廳ニ願出檢印ヲ受クヘシ

罰則

第二十六條 本規則第一條第二條ノ本文ニ違犯シタルモノハ拾錢以上一圓以下第五條第二十二條第二十五條ニ違犯シタル者ハ五拾錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附則

明治十六年丙第六十四號達小笠原島地所下渡規則ニ據リ土地ノ下渡ヲ受ケ其開墾落成セサルモノハ當初許可ノ日ヨリ本則第六條ノ期限ヲ起算スルモノトス

本府達第五百七十一號 明治十七年七月十一日

(四) 其島木材ノ儀當廳出張所ノ檢印ナキモノハ輸出候儀不相成候條此旨相達候事

全 第五百七十二號 明治十七年七月十一日

(五) 其會社船舶小笠原島ニ於テ木材積入ノ節當廳出張所ノ檢印ナキモノハ一切積載候儀不相成候條此旨相達候事

森林費金 明治廿一年六月廿二日上申

(六) 從來當島ニ於テハ水源涵養地ヲ除クノ外何レノ場所ヲ問ハス土地下渡家屋船舶用材ハ無代價ヲ以テ拂下ケ輸出其他ノ要ニ供スルモノハ相當代價ヲ徴収シ森林収入トシテ是迄上納致來候得共追々人口増殖ニ隨テ家屋船舶用ニ許多ノ木材ヲ要スル儀ニ付今日リ用材林ヲ栽培セサレハ遂ニ微蟲タモ栖息ノ途ナキ地ニ可至依テ

林地ヲ撰定シ土地相當ノ用材ヲ植付ケルハ最モ急務ニ有之候得共右ニ係ル費用ハ別ニ支弁スヘキ途無之候條本年度以降上納スヘキ森林収入ハ該費金ニ充テ申度候條別格ノ御詮議ヲ以テ至急御認可相成度此段及稟請候也

本府達乙第廿三號 明治十五年三月一日

(七) 其島吹破山下及ヒ大村西地先山上ニ於テ各千坪ヲ分畫シ墓地ト相定候條一戸六坪以内使用ノ積リヲ以テ出張所へ願出ヘシ此旨相達候事

但墓地ハ典賣ヲ許サス轉籍等ノ節未葬ノ地ハ返付スヘキ義ト心得ヘシ

本府達 第七六 明治二十年
五四号 七月十四日

(八) 其島母島沖村ノ北字清見岡ニ於テ地坪千坪東港字桐濱上ニ於地坪五百坪墓地ト相定メ候條需用者アルキハ官有地ノ儘使用セシムルハシ

本府達 明治二十年
七月十四日

(九) 明治十五年三月當廳乙第二十二號達其島吹破山及大村西地先山上兩墓地ノ義ハ今般母島沖村ノ北字清見岡及東港字桐濱上ヘ取設候墓地同様官有地ノ儘使用セシムル儀ト心得ヘシ

本府達 明治十九年十
二月廿五日

(十) 本年法律第一號ヲ以テ制定相成候登記法ノ儀ハ其島ニ於テ當

分ノ内施行不相成候條從前ノ公証方法ヲ以テ登記法ニ代用スル儀
ト心得ヘシ

外國船取扱

本府ニ伺第五六五号 (明治二十二年四月十六日伺)
(全六月二十二日指令)

(十一) 當ニ見港入津外國船取扱方ノ義ハ明治十七年港規則御中止
相成リ候爾來別ニ據ル可キノ規則等無之唯從前ノ慣行ニ照シ取扱
來候得共都テ外國ニ關スル義ニ付鎖末ノ事件ト雖モ尙忽緒ニ付ス
可ラサル次第ニ有之就テハ別紙取扱心得ヲ草シ相伺候條至急何分
ノ御詮議相成度此段上申候也

外國船取扱心得

第壹條 外國船入港シタル時ハ掛官員直ニ該船ニ臨ミ船長ニ面會シ
テ左ノ事項ヲ取調ヘ島司ニ申報ス可シ但軍艦ナル時ハ島司自ラ訪

問ス可シ

- 一 國名
- 二 船名
- 三 船長氏名
- 四 噸數又ハ馬力
- 五 乗組員數
- 六 乗客員數
- 七 入港ノ趣旨
- 八 傳染病者ノ有無
- 九 解纜地名
- 十 寄港地名
- 十一 停泊日數

- 第貳條 薪水食糧若シハ其他必需品購求方ノ依頼アル時ハ懇切ニ之レニ應ス可シ
- 第參條 乗組員中疾病患者アリテ診察ヲ乞フ時ハ醫員ヲシテ懇切治療セシメ相當藥價ヲ徴収スヘシ
- 第四條 乗組員中重病者アリ本島ニ滞留シテ治療ヲ受ケ全快ノ上便船ヲ以テ在横濱本國領事ヘ送致方ノ請求アル時ハ其費用ヲ豫納セシメ且嶋民中ニ引受人ヲ立テシメ之ヲ許可スヘシ但死亡スル時ハ引受人ニ於テ埋火葬ノ手續ヲ爲スヘキ書面ヲ取置クヘシ
- 第五條 乗組員中傳染病患者アル時ハ十分ニ豫防法ヲ施シタル後ニ非ラサレハ上陸スルヲ許サス
- 第六條 乗組員中本島内ニ於テ死亡シ埋火葬ノ請求アル時ハ之ヲ許可ス可シ

第七條 乗組員上陸中潜匿シタル者アリテ取押方依頼アルキハ速カ
ニ其手配ヲ爲シ取押ノ上船長ヘ引渡ス可シ若シ停泊中搜索シ得サ
ル時ハ取押次第在横濱本國領事ヘ送致ス可キ請求書ヲ取置キ其手
續キヲ爲スヘシ但山林等ニテ病死若クハ變死セル時ハ檢視ノ上埋
葬ノ手續ヲ爲ス可シ

第八條 乗組員上陸ノ際喧嘩亂暴シタル時ハ先ツ説諭ヲ加ヘ若シ聽
カサル者アル時ハ取押船長ニ引渡ス可シ

第十條 乗組員中疾病死亡若クハ逃亡等ノ爲メ缺員ヲ生シ島民ヲ雇
入レタキ旨ヲ請求スルキハ近海漁獵若クハ本邦内指定シタル場所
ニ送り届ク可キ約束アル者ニ限り之ヲ許スヘシ

第十條 外國船本島沿海若クハ二見港内ニ於テ難破シ救助ヲ請フ者
アル時ハ相當ノ取扱ヲ爲スヘシ若シ資力ナク費用自辨シ能ハサル

者ハ船長若シハ船主ヲ請求書并ニ証書ヲ徴シ一時繰替支辨スヘシ
第五二四七號

書面伺之趣左之通可相心得事
第壹條伺之通

但軍艦尋問ノ事項及停泊中取扱方ハ左ノ通
尋問ノ事項

國名 艦名 艦長氏名 入港ノ旨趣 傳染病者ノ有無
解纜地名 寄港地名 停泊日數

停泊中取扱方

外國軍艦停泊中取扱方ハ明治二十年七月十三日附テ以テ東京府
書記官銀林綱男ヨリ通達シタル沖繩縣知事伺ニ對スル外務外三
大臣ヨリノ指令書ヲ參酌シ而シテ該指令書ニ明文ナキ事項ニシ

テ左ノ條件ニ關スルモノハ其條件ニ基キ取扱フベシ

第二條 薪水食糧ノ外ハ本船之運轉上等ニ關シ必需ト見認ル物品ニ限リ購求差許スヘシ

第三條 伺之通

第四條 伺之通

但本人死亡スルキハ引受人ニ於テ埋火葬ノ手續ヲ爲スヘキ儀ハ

船長ヨリ其依頼書ヲ取置クヘシ

第五條 傳染病者アルキハ傳染病豫防及檢疫ニ關スル一般ノ法律ニ依リ尙實際斟酌之上取扱フヘシ

第六條 埋葬方ヲ請求スルキハ假埋葬ヲ許可シ其旨ヲ本廳ヘ届出ヘ

シ尤埋葬地ハ地勢ノ變更等ニ據リ改易スルコアルヘキ旨ヲ約シ且其地所ハ相當之坪數ヲ限リ普通賣買之地價ヨリ低落セサル貸地料

ヲ徴収シテ貸與スヘシ

但貸地料額ハ豫定スヘキニ付速ニ該料額取調本廳ヘ申出ヘシ

第七條 前段伺之通後段ハ其本人ヲ横濱へ送致スヘキ請求書ヲ船長

ヨリ差出サセ且該費用ヲ豫納セシムヘシ又山林等ニテ病死或ハ變

死シタルキハ本船解纜以前ニ於テハ船長ト立會檢屍之上埋葬之手

續ヲ爲シ解纜以後ニ於テハ囑應ニテ埋葬方ヲ取計而シテ其實況ヲ

本廳ヘ具申スヘシ

第八條 伺之通

第九條 本船之運轉等ニ差支ヲ生シ眞ニ已ムヲ得スト見認ル場合ノ

外ハ成ルヘク拒絕スヘシ

第十條 明治三年二月同シク四年四月同八年五月第七十号公布之難船救助心得方及同九年十一月第百十号同十年十月第七十九號同十

一年八月第三十六號達シニ基キ取扱フヘシ

明治二十一年六月二十二日

勸業談話會設置

明治廿一年一月二十三日伺
全年三月十五日指令

(十二) 本島ハ土地未タ開ケス人民モ亦僅カノ天產物ニ依頼シ敢テ
殖産興業ニ注目スルモノ無之由テ今般別紙準則ヲ授ケ小笠原島勸
業談話會ノ設立ヲ誘導シ嶋民各業ノ利害得失ヲ講談セシメ且ツ精
業者ヲ賞譽シ勸業振起ノ一助ト相成候様任度就テハ右賞譽ニ關ス
ル一切ノ費用ハ當廳定額内地方勸業費ヨリ補助致度此段上申候條
何分ノ仰御詮議候也

指令第二九七一號

書面上申之趣聞置候事

別紙小笠原島勸業談話會準則

- 第一條 本會ノ主意ハ本島勸業上ニ關スル一切ノ事柄ニ付利害得失及各自ノ經驗等ヲ談話シ以テ彼我ノ利益ヲ圖ルモノトス但本條ノ件ニ付島廳ヨリ本會ニ諮問アルハ直ニ之ニ答申スルモノトス
- 第二條 會期ハ毎月一回父島ハ大村母島ハ沖村ニ於テ適宜ノ場所ニ開設スヘシ但シ開會ノ當日ニハ掛員臨場スルコトアルヘシ
- 第三條 會員ハ當分伍長ヲ以テ之ニ充ツ但シ當日出席スルモノハ固ヨリ旅費日當辨當料等ハ自辨クルヘシ
- 第四條 會頭ハ互撰ヲ以テ之ヲ定メ凡テ會場ノ整理ヲ掌ル但毎年一月改撰スルモノトス
- 第五條 本會ノ談話ヲ筆記スル爲メ會頭ハ壹名ノ書記ヲ撰定スヘシ
- 第六條 本會ノ談話ヲ筆記シタルモノハ整頓ノ上島廳ヘ報告スヘシ

第七條 本會ノ問題ハ會頭ヨリ發スベシ但會員中意見アルモノハ開會二日前ニ會頭ヘ差出スベシ

第八條 本會ハ俗語平話ヲ主トス甲ノ談話終ルヲ待テ乙ノ談話ヲ發スル等着實靜穩ヲ旨トスヘシ

第九條 平素稼業勵精且ツ心掛篤實ニシテ村内ノ龜鑑トナルヘキモノヲ撰ミ毎年一回之ヲ賞與スルモノトス

第十條 前條精業者ノ撰舉ハ毎年十月勸業談話會ノ節會員ヲシテ村々戶主家族雇人ヲ論セズ左ノ事項ニ該當スルモノヲ投票セシム

第一平素心掛篤實ニシテ事業ノ改進ヲ圖リ都テ衆人ノ龜鑑トナルモノ

第二品行正直稼業ニ精シク勉勵衆ニ超ルモノ

第三稼業ニ注意シ能ク勉勵スルモノ

但シ心掛篤實ナラサルモノハ本項ニ擬スヘカラス

第十一條 前條ノ投票了ルトキハ會頭ハ第十二條ニ掲グル賞與等級ヲ擬定執行ス

第十二條 賞與等級品類ヲ定ムル左ノ如シ

第一等 唐鍬 壹挺

第二等 樵鎌 貳挺

第三等 樵鎌 壹挺

第十三條 會場ニ要スル筆紙墨其他必須ノ費用ハ都テ會員ニ於テ協議支弁スヘシ

本府達甲第廿七號

明治十八年
五月九日

(十三) 小笠原島違警罪目左之通相定本年七月一日ヨリ施行ス

右布達候事

左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

一 伐木及木材取締規則ニ違背シタル者

二 禁止期限ヲ犯シ蟻龜及其卵子ヲ捕獲シタル者

三 病死又ハ病アル禽獸ヲ知リテ食料ニ販賣シタル者

四 毒藥又ハ劇烈ナル品ヲ用ヒ魚鳥獸ヲ捕リタル者

五 旅人宿ニ於テ族籍身分氏名ヲ詐稱シタル者

六 船舶出入ノ際事故ナクシテ出船ノ求メニ應セス又ハ不當ノ船

賃ヲ食リタル者

七 官廳及派出官吏ノ召喚ニ應セサル者

八 榜示スル禁條ヲ犯シタル者

九 官許ヲ得スシテ道路ニ竹木花草等ヲ植付ケタル者

十 他人ノ堆積シタル薪炭木石等ヲ取崩シタル者

十一 諸標柱ニ獸畜ヲ繫キタル者

十二 猥褻ノ演義ヲ爲シタル者

十三 道路又ハ人家接近ノ場處ニ於テ獸畜等ヲ屠リ又ハ其腐敗物

ヲ投棄シタル者

十四 他人ノ田圃ヲ毀テ又ハ土泥ヲ掘取リ及ヒ瓦礫等ヲ投棄シタ

ル者

十五 瓦礫土芥等ヲ船舶ニ投棄シタル者

十六 塵芥捨場外ニ塵芥ヲ投棄シタル者

十七 神佛祭事祝儀葬禮等ノ節事故ニ托シ妨害ヲナシタル者

十八 他人ノ稼業ヲ妨ケ又ハ之ヲ故障シタル者

十九他人ノ漁獵及其漁獵具又ハ魚乾場等ニ妨害ヲ爲シタル者
 二十魚介禽獸等ノ養育場ニ妨害ヲ爲シタル者
 二十一水除杭ニ妨害ヲナシ又ハ之ヲ拔キ取リタル者
 二十二溝梁下水等ニ瓦礫土芥等ヲ投棄シテ疏通ヲ妨ケタル者
 二十三夜間十二時後歌舞音曲其他喧噪シテ他ノ安眠ヲ妨害シタル者

本府達甲第六十五號 明治十八年
 十月廿一日

(十四) 小笠原島海邊ニ於テ毎年五月一日ヨリ八月三十一日迄蠅蠅
 及其卵子ヲ捕獲スルヲ禁ス

本府達甲第四十八號 明治十七年十
 二月廿五日

(十五) 小笠原島賭博犯處分細則別紙之通相定ム
 右布達候事

(別紙)

賭博犯處分細則

第一條 懲罰ハ監倉ニ入レ定役ニ服サシム其方法ハ總テ監獄則ニ據ル

第二條 懲罰期限内他罪ヲ以テ處刑ヲ受ケタル者ハ懲罰ノ執行ヲ停止シ殘餘ノ日數ハ處刑滿期ノ後更ニ之ヲ執行ス

第三條 科料ハ言渡ノ日ヨリ三十日以内ニ完納セシム若シ限内完納セサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シ懲罰ニ換フ其一圓ニ滿タサル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第四條 科料ヲ懲罰ニ換ヘタル者限内更ニ科料ヲ納メタル者ハ其經過シタル日數ヲ扣除シテ懲罰ヲ免ス親屬其他ノ者代納シタル者モ亦同シ

第五條 懲罰ノ期限ハ言渡シノ日ヨリ起算シ放免ノ日ハ期限内ニ算入セス

第六條 一日ト稱スルハ二十四時一月ト稱スルハ三十日一年ト稱スルハ曆ニ從フ

第七條 懲罰人悔悟悔改ノ狀アルキハ東京府島司ニ於テ減免スルコトヲ得

本府達 明治十七年四月

(十六) 賭博犯懲罰人取扱

一懲罰ニ處シタル者徵兵年齢ニ相當スルキハ右懲罰満期ニ至リ召募ニ應ゼシム

一懲罰ニ處シタル者ハ公權ヲ停止スル限ニ非ラスト雖モ懲罰限内勳章ヲ佩用シ及ヒ後見人管財人若クハ共有財産ノ管理人ト

爲ル等ノコトヲ得セシム可カラス

一會議所議員タル者賭博ノ所爲アリ懲罰ニ處シタルキハ其議員タル資格ヲ失ハスト雖モ議場ニ參列スルヲ許サハルハ勿論撰舉被撰舉權ヲ有スル者モ懲罰限内ハ之ヲ行ハシム可カラス

一帶動者ヲ懲罰ニ處シタルキハ其都度届出ツ可シ

右相達候事 本府達丙第六十六号 明治十七年五月十七日

(十七) 歸休兵及豫備後備ノ軍籍ニアル者ノ賭博犯ノ處分ヲ爲シタルキハ其罪狀並刑名ヲ詳記シ其都度届出ヘシ此旨相達候事

但其懲罰限内ハ召集點呼セサル儀ニ候條此旨心得ヘシ

本府達 明治二十年二月二日

(十八) 今般東京府令第六號ヲ以テ小笠原島賭博犯處分細則第七條

改正候ニ就テハ其應ニ於テ懲罰人ヲ減免シタルキハ其犯由及ヒ峻
改ノ情狀等詳細具申スヘシ

本府達甲第六十九號 明治十八年
十一月四日

(十九) 小笠原島娼妓取締規則左ノ通相定ム
右布達候事

小笠原島娼妓取締規則

第一條 小笠原島ニ於テ娼妓ヲ爲サントスル者ハ原籍住所氏名年齢
及揚代金等ヲ詳記シ東京府出張所ヘ出願スヘシ

第二條 他ヘ轉住シ又ハ廢業若クハ休業ナスキハ其都度同出張所ヘ
届出可シ

但第一條及本條ノ場合ニ於テ同居又ハ附籍ノ者ハ其戸主ノ連印
ヲ要ス

第三條 毎月五日十五日二十五日ヲ期トシ同出張所醫員ニ就キ身体
検査ヲ受クヘシ

但黴毒ニ罹リタル者ハ服藥等一切検査醫員ノ差圖ニ從ヒ治療中
休業セシムルモノトス

第四條 此規則ニ違犯シ密賣淫ヲ爲シタル者ハ初犯ハ壹圓以上貳圓
五十錢以下再犯以上ハ三圓以上五圓以下ノ科料ニ處ス

第五條 科料ハ其處セラレタル日ヨリ五日内ニ納完セシム右期限内
納完セサル者ハ五十錢ヲ一日ニ折算シ之ヲ拘留ニ換フ其五十錢ニ
滿タサル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算スヘシ

第五類 裁判

太政官布告第五十六號 明治十四年十月七日

(一)小笠原島裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所即違警罪始裁判所

審裁判所即輕罪ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民事控訴及重罪裁判ハ

東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此

旨布告候事

但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

勅令第三十五號 明治二十一年五月十四日

(二)沖繩縣及小笠原島ニ於テハ當分ノ内同廳官吏ヲシテ裁判官檢察

官ノ職務ヲ行ハシム

本府達 明治十九年十一月二日

(三)其嶋民刑事ニ係ル控訴上告期限ノ儀ニ付別紙ノ通司法大臣へ及

稟議候處朱書之通指令相成候條此旨相心得ヘシ

別紙

管内小笠原島法衙ニ於テ與ヘタル民事又ハ刑事裁判言渡ニ對スル

控訴并ニ上告期限之儀彙ニ致上申候ニ付テハ追テ何分之儀御詮議

可相成筈ト存候得共差當リ左ノ廉々相伺候

一 小笠原島之儀ハ海上二百五十里餘ヲ隔テ一ケ年僅カ四定期航海二月

五月八月ナルニヨリ三ヶ月毎ニアラサレハ便船無之ニ付其間始審

十一月 法衙ニ於テ與ヘタル民事裁判言渡ニ對シ不服ノ者控訴ヲ爲サント

スルモ右控訴期限ハ勿論里程ニ係ル豫期限モ全ク經過候儀モ可有

之候得共右疎虞懈怠ヨリ前條ノ場合ニ立至リ候儀ニ無之即チ事實

已ムヲ得サルヨリ出ルモノニ付不服者ニ於テ明治十年第十九號布

告第六條ノ手續ヲ爲スルハ控訴院ニ於テ天災時變全様取扱可相成

筋ニ有之候哉

一 輕罪裁判言渡ニ對スル控訴上告之儀ニ付テハ治罪法第二百六十六條ニ基キ控訴ヲ爲サントスル者ハ全第三百二十九條ニ據リ又ハ十八年第二號布告第二條ニ基キ控訴期限内ニ控訴ヲ爲サスシテ直ニ上告ヲ爲サントスルモノハ治罪法第四百十六條ニ據リ各其申立書ヲ原裁判所ノ書記局ヘ差出スキハ即チ控訴又ハ上告ヲ爲スノ申立成立スルモノニシテ控訴院又ハ大審院ニ於テ受理可相成儀ト存候得共其上告ニ係ル場合ニ於テハ同第四百二十條ニ據ルニ書記ハ第四百十七條以下ノ數條ニ定メタル期限經過シタル后速ニ訴訟書類及ヒ上告書類ヲ其裁判所ノ檢察官ニ差出シ檢察官ハ其書類ヲ五日內ニ大審院檢事長ニ差出シ云々ノ明文有之候處前陳ノ次第ニテ右期限内ニ到底其手續ヲ爲シ能ハサル義ニ付是又天災時變同様取扱

可相成筋ニ有之候哉

右至急何分之御指揮ヲ仰ヤ候也

(指令) 伺之趣左之通

第一項 小笠原嶋人民民事控訴上告期限ノ義ニ付テハ別紙ノ通大審院東京控訴院ヘ内訓ニ及ヒ置キタルニヨリ其旨心得ヘシ

第二項 輕罪裁判言渡ニ對スル上告ノ場合ニ於テ檢察官ヨリ治罪法第四百二十條之期限内ニ其書類ヲ大審院檢事長ニ差出スニ付テモ該期限内ニ發送ノ取調ヲ了シ日附ヲ明記シテ郵便ニ付シ置クハ爾后發使マテ幾月日ヲ經過スルモ差支ナシ

裁判事務 明治廿年四月七日知事ヨリ司法省ヘ伺全年五月三十一日指令

(四) 管内小笠原島ニ係ル裁判事務ハ明治十四年第五十六號公布ニ據ル同島聽ナシテ治安裁判所及ヒ始審裁判所ノ權限ヲ以テ之ヲ掌

理セシム然ルニ同島廳ハ元來吏員寡少ニシテ目下判事補ヲ兼任ス
ル者一名アルノミ故ニ同一ノ判事補ニ於テ治安裁判所違警罪裁判所若シ
クハ始審裁判所輕罪裁ノ權限ヲ以テ各其裁判ヲ爲サ、ルヲ得ス而
シテ該治安裁判所ニ於テ與ヘタル裁判ヲ不服ナリトシテ更ニ之レ
ヲ始審裁判所ニ向テ控訴ヲ爲スモノアル場合ノ如キ曩キニ判事補
某ノ名義ヲ以テ治安裁判所ノ權限ニ據リ始審裁判ヲナシタル事
件ニ對シ復ヒ始審裁判所ノ權限ニ據リ之レカ覆審ヲ爲サ、ル可カ
ラサルナリ夫レ如此同一ノ事件ニ對シ同一ノ判事補ニ於テ之レヲ
審理スルアラハ審ニ裁判ノ公平ト信憑トヲ維持シ能ハサルノ嫌ア
ルノミナラス實ニ法理ノ許サ、ル所ナルヘシ因テ自今治安裁判所
ニ於テ與ヘタル裁判ニ對シ控訴ヲ爲セントスル者ハ更ニ東京始審
裁判所ニ出訴セシムルカ將タ東京府嶋司ヲ判事ヲ兼任セシメ右

控訴ニ係ル事件ヲ審理セシムル哉結局此二途ノ中孰レカ其一ニ出
テサレハ事實上不都合抄カラス就テハ何分ノ御詮議相成候様致度
此段上申候也

指令

上申ノ趣追テ何分ノ儀相達スル迄從前ノ通り心得ヘシ

裁判權限 明治廿一年六月十九日伺

(五) 今般勅令第三十五号ヲ以テ本嶋裁判官檢察官ノ職務當分島廳
官吏ヲシテ行ハシムル旨御布令有之候就テハ裁判事務及其權限等
去明治十四年十月太政官第五十六号ヲ以テ東京府出張所へ御達相
成候權限ニ據リ、執行可致ハ勿論之儀ト存候得共爲念此段相伺候間
其筋へ御照會何分ノ御指揮ヲ仰キ候也

第六類警察

大政官達 明治十三年十月廿六日

(一) 小笠原島警察事務目今其府へ被附候條此旨相達候事

(二) 本府甲第百三十四号達 明治十三年十月廿八日

小笠原島へ當府出張所ヲ設ケ該島一切ノ事務ヲ爲取扱且警察事務ヲ義ハ警部巡查ヲ置カス出張吏員ヲシテ爲取扱候條此旨布達候事

(三) 本府内訓第四号 明治二十年二月九日

小笠原島警察事務ハ本府之ヲ管理スト雖本府ニハ警部長ヲ置カシサルヲ以テ同島警察事務ニ關シ警部長ノ職掌ニ屬スベキモノハ島司ニ於テ掌理スル儀ト心得ヘシ
巡查設置 明治廿年一月十七日府知事ヨリ内務省へ同全年一月二十一日指令

(四) 當管内小笠原島警察事務ノ義ハ是迄警部巡查ヲ置カス在勤庶員ヲシテ取扱ハシメ來リ候處島内ヲ巡視スル者章服ヲ着セス帶劔セサルヨリ自然嚴肅ヲ欠キ島民ハ勿論一時入港外國人ニ於テモ警察吏ヲ蔑視スルノ傾向アルハ勢ノ免レサル處ニ有之候間自今巡查ヲ置キ現今警察事務ニ從事スル雇ノ輩又ハ其他ヨリ便宜採用シ島司ノ指揮ニ應シ職務ニ從事爲致度候條御允可相成度此段相伺候也

(指令)

書面伺ノ趣開届候事

但帶劔セシムルヲ要セサル儀ト心得ヘシ

巡查服制 明治二十年十一月伺
明治二十年 月指令

(五) 當廳巡查服制來ル二十一年度ヨリ別紙圖表之通相定禮服ニ兼用セシメ候様致度此段相伺候也

(指令)書面伺之通

但徽章黃四分壹條ハ黃一分四條ト改ムヘシ

巡查制帽制服表

帽	全徽章	服 ト モ 袴	同地	釦
紺羅紗	前日章白 銅横線黃 四分壹條	無徽章	冬紺小倉 夏白雲才	眞鍮日章

圖畧ス

本府達 巡查看守者支給品規則 明治二十一年一月十三日

(六) 其廳巡查並ニ看守者支給品規則ヲ左ノ如ク相定メ明治二十一年度ヨリ施行ス

巡查看守支給品規則

第一條 支給品ヲ分テ給與貸與ノ二類トス其品目及使用期限等ハ別表ニ據ル

第二條 給與品ハ新任ノ際又ハ使用滿期ノ翌月之ヲ給ス其期限内ニ於テ轉免スル者ハ現品ヲ以テ返納セシム

第三條 月數ノ計算曆ニ從フト雖モ其始終ノ端日數ハ之ヲ通算シ三十日以内ハ一月トス

第四條 使用滿期ノ給與品ニシテ一月以上使用ニ堪ユルモノハ島廳ノ査定ヲ受ケ襲用スルヲ許ス但此場合ニ於テハ現品ノ原價ヲ月割トシ襲用月數ニ應シ其金額ヲ給スルモノトス

第五條 返納ニ係ル物品ノ中尙ホ使用ニ堪ユル者ハ島廳ニ於テ更ニ使用期ヲ査定シ給與者ノ望ニ依リ給スルコトアル可シ

第六條 貸與品ハ新任ノ際之ヲ給シ轉免死亡ノ節ハ現品ヲ以テ返納

セシム尤モ欠員補充ノ場合ニ在リテハ前任者ノ分ヲ繼續帶用セシム

第七條 支給品ヲ遺失汚損シタル者ハ更ニ現品ヲ給ス可シト雖モ正當ノ事故ナキモノハ其原價ヲ返償セシム但給與品ニ在リテハ其使用殘期ニ屬スル金額ヲ以テセシム

第八條 巡查看守ノ間ニ於テ轉任スル者ハ支給品ノ制服及帽前章ハ第二條ノ例ニ依リ其他ハ總テ繼續帶用セシム

第九條 第四條ニ因リ物品製用者ニ對スル原價ハ別表ニ據ル但買入直段ノ高低ニ應シ時々變換更訂スルモノトス

品目	冬服	全肌着	夏服	全肌着	帽日覆	外套	肩掛	帽	長靴	短靴	帽雨覆	靴下	貸與品 品目個數
	一組	二組	二組	三組	一組	內國製絨 外國製絨	全 全	一	一	二	內國製絨 外國製絨	一	
使用期限	三年	全	八ヶ月	全	一年	三年	三年	一年	一年	一年	三年	一ヶ月	捕繩一
使用期節	十二月一日ヨ 十一月三十日迄												手帖一
終ルナキ期トシ返納セシム	帽前章及制服鈕ハ帽並服ノ使用期限ノ												

被服原價表

品目	使用期限	支給數	原價	一月原價
冬服	三年	一組	貳圓六拾錢	七錢二厘貳毛
全肌着	全	二	壹圓貳拾錢	三錢三厘三毛
夏服	八ヶ月	二組	貳圓九拾錢	三拾六錢貳厘五毛
全肌着	全	三	壹圓七拾壹錢	貳拾壹錢三厘
帽日覆	一年	二	貳拾錢	壹錢六厘六毛
外套	三年	一	六圓五拾錢	貳拾壹錢八厘三毛
肩掛	三年	一	貳圓	七錢壹厘
帽	一年	一	五拾五錢	四錢五厘八毛
長靴				
短靴	一年	二	三圓	貳拾五錢
帽雨覆	三年	一	拾五錢	四厘貳毛
靴	一月	一	五錢	五錢

本表ハ支給規則第二條ニ因リ被服製用者及返納者ニ對スル原價表ナルニヨリ物品買入直段ノ高下ニ應シ其時々變換更訂スルモノトス

物品製用ノ許可ヲ受ケタル者ハ滿期ノ翌月ヨリ本表代價ノ月額ヲ支給ス

轉免之節代價返納ノ物品モ又本表代價ノ月額ノ殘期月數ニ應シ返納スルモノトス

第七類 監獄

內務卿ヨリ警視廳神奈川縣へ達 明治十六年 五月四日

(一)小笠原島犯罪人等送致手續ノ儀ニ付別紙寫ノ通り東京府知事ヨリ伺出朱書ノ通及指令候條不都合無之様可取計此旨相達候事

(別紙)

當廳管轄小笠原島へ刑事被告人犯罪人等潛匿ノ旨ヲ以テ其管轄裁判所等ヨリ令狀執行等ノ囑託有之候節ハ該島出張所吏員ヲ之ヲ引致セシムルハ正當ノ手續ニ可有之候得共寡少ノ吏員ヲシテ如此事件ノ爲ニ時々内地へ出張セシメ候テハ事務差問不勘候間右ノ場合ニ於テハ該島へ定期往復スル船舶ノ船長へ保管ヲ命シ其着船地品川或ハ横濱港ノ警察署へ傳致シ即チ品川或ハ横濱警察署ヨリハ本船ニ出張シテ之ヲ受取り而ル後十五年第十號公達囚人護送手續第二條ニ依リ取扱候様致度此段相伺候條御裁可ノ上ハ警視廳及神奈川縣へモ御達置有之度候也

(指令)

書面伺ニ趣聞届即チ別紙寫ノ通り警視廳并ニ神奈川縣へ相達置候事

假出獄及假免監視

明治十八年十二月廿七日府知事ヨリ内務司法兩省へ伺全十九年一月廿三日指令

(一) 當管内小笠原島之儀ハ現今移住民ノ蕃殖従前ニ倍蕪スルニ隨ヒ輕罪ニ係ル既決囚徒追々増加致候然ルニ囚徒中獄則チ謹守シ悛改ノ狀アルキハ刑法第五十三條ニ基キ其刑期四分ノ三ヲ經過スル后行政ノ處分ヲ以テ假出獄ヲ許ス場合若シハ監視ニ付セラレタ者監視中其情狀ニ據リ刑法第四十一條ニ基キ假ニ監視ヲ免スル場合ニ於テハ均ク内務司法兩大臣ニ具狀シ許可ヲ得ヘキハ刑法附則第二十六條及三十八條ニ明文有之候處元來該島ノ儀ハ海上二百五十里餘ヲ隔テ一ケ年僅カノ(二月五月八月十一月)航海ナルニヨリ例へハ爰ニ一ケ年四ケ月ノ處刑ヲ受ケタル者獄則チ謹守シ悛改ノ狀アル場合ノ如キ其刑期四分ノ三即チ一ケ年ヲ經過シタル後假出獄處分方ノ義ヲ其都度上申候テハ彼是往復ニ四ケ月ヲ費シ到底主刑滿期放

免ノ后ニアラサレハ其許可ヲ得ル能ハス又監視一ケ年ニ付セラレタル者其期限八ケ月經過之後悔改ノ状アル場合ノ如キ假ニ監視ヲ免スルカ爲メ其都度右手續ヲ經過候テハ前同様監視満期後ニアラサレハ其許可ヲ得ル能ハス究竟スルニ囚徒若シハ監視中ノ者ヲ懲勵シ真心悔悟ニ誘導スルノ主意ニ反シ不都合不少義ト存候條自今該島囚徒若シハ監視中ノ者ニシテ刑法第五十三條及第四十一條適當ノモ、有之候ハ、該島當府出張所ニ於テ夫々處分シ便船次第右ニ係ル一切ノ狀況具申セシメ候様致度此段及上申候也

(指令)

書面上申之趣當分ノ内聞届候條追テ定期航海數増加シ其期限内ニ在テ認可ヲ得ルニ至テハ成法ノ通可取計儀ト可心得事

(三) 巡查兼看守 明治二十年六月廿八日伺 全年七月十一日指令

(三) 當廳監獄ノ在監者常ニ平均三四名多キ時ハ十四五名ニ至リ然ルニ雇夫一名ニテハ自然取締相立不申去リ逆別ニ看守ヲ要スル義ニモ無之候間巡查ヲシテ看守兼務爲致度此段相伺候也

(指令)

書面伺之趣聞届候條兼務ヲ命シタル節ハ其人名可届出事

但看守ノ職務ヲ執行スル場合ニ於テハ其服裝ヲ具フヘキ儀ト可心得

司丙第三四号 明治二十一年六月廿三日内 務書記官ヨリ府知事へ通知

(四) 監視期限ノ儀ニ付當大臣協議之上別紙之通司法大臣ヨリ内訓等有之候條此段及御通知候也

(別紙)

監視期限等入方

- 第一 被監視者他ノ犯罪ノ爲メ未決拘留セラレタルキハ其拘留中ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス
- 第二 前項ノ場合ニ於テハ後犯裁判確定前日迄ノ日數ヲ算入ス
- 第三 監視規則違犯中ノ日時ハ擅ニ他管ニ出テタル場合ト雖モ仍ホ監視期限ニ算入ス
- 第四 賭博犯ノ懲罰及密賣淫ノ懲戒日數ハ監視期限ニ算入ス
- 在監人建白書 明治二十一年六月七日
本府書記官ヨリ通知
- (五) 在監人ヨリ差出ス建白書之件ニ付今般別紙ノ如ク警保局長ヨリ通牒有之候條爲御心得及御通知候也
- 別紙
- 明治二十一年五月二十四日警保局長ヨリ府知事へ通牒
- 在監人ヨリ差出ス建白書ノ件ニ付今般左ノ通訓令相成候條爲御

心得及御通牒候也

明治二十一年五月二十二日大臣ヨリ茨城縣へ訓令

明治十六年五月中在監人ヨリ差出ス建白書等許否ノ件其縣伺ニ

對シ指令及ヒタル趣モ有之候處自今未決者及ヒ懲治人ニ限り建

白書ヲ差出サント請フ者アルキハ之ヲ許ス可シ

右訓令ス

第八類 地券及ヒ租稅

諸般免稅 明治九年十月十四日内務卿上申
同 太政大臣指令

- (一) 小笠原島ノ儀ハ素ヨリ絶海ノ孤島ニシテ未タ地利海益トモ相與不申將又先般四省協議ノ上該嶋着手ニ付諸規則取調相伺候内地租并輸出入物品共當分ノ内免稅ノ積リニ候處伺之通御指令モ有之就テハ右ノ外諸稅モ同様當分ノ内免許相成候様致度存候右ハ兼テ

成規モ有之候事ニ付此段上申仕候也

(指令)

上申之趣聞届候事

本府達 明治二十年
二月七日

其島租稅徵收之節ハ徵稅令書ヲ發セス直ニ現金ヲ領收シ之ヲ當廳
へ送付スヘシ

本府達第貳百貳拾九號 明治十八年
五月四日

(二) 本年 四月 第二十二号布達ヲ以テ其島民有地規則相定メ候ニ付
地券取扱方左ノ通可相心得此旨相達候事

一新ニ下與候地券ハ別紙雛形ノ通り記入下渡スヘシ

一所有地ヲ賣渡シ又ハ讓渡サントシ地券書替ヲ乞フキハ其旨ヲ
基帳ニ登記シ書替下渡スヘシ

一所有主本島外へ移轉代理人ヲ認可シ又ハ改姓名ヲナシタルキ
ハ別紙雛形 二 印ノ通朱書ヲ以更正主任官之ニ捺印シ基帳ヲ
更正シ代理人ハ姓名ヲ朱記シ置クヘシ

一 地券下與及書替ヲナシタルモノハ簡明ノ表面ニ記載シ前年分
一月ヨリ 一翌年初度ノ便船ヲ以テ當廳へ報告スヘシ
十二月迄

一 地券用紙書損又ハ破損シタルモノ若クハ書損等ニ依リ還納シ
タル地券ハ取纏メ當廳へ返納スヘシ

(三) 地券狀取扱 明治二十年五月四日伺
同年六月十七日指令

明治十八年四月甲第廿二號布達ヲ以テ當島民有地規則相定メラレ

シ以來地券狀取扱之義同年五月第二百廿九號ノ通り直ニ本地券下
 附可致筭ニ有之然ルコ今日ニ至ンモ本地券ヲ下付セス從前ノ如ク
 仮地券狀ヲ下付致候間本地券ニ相改度候得共如何セン本島ノ地タ
 ル絶海ノ小島嶼ニシテ平坦ノ地ニ乏シク其地形タル谿谷ニアラス
 ンハ概ネ山岳ニシテ實地測量ノ如キ尋常測量家ノ容易ニ爲シ得ル
 處ニアラス之レヲ内地ニ比スルニ其難易想ヲヘシ其他凡百之事比
 々皆ナ然リ加之ナラス今日ハ居住ノ人民僅少ニシテ未タ内地トノ
 交通甚々稀疎ニ有之隨テ地租改正法等ノ如キ内地一般ノ政令ト雖
 モ本島ヘハ未タ施行セス今仮リニ右等ノ例ヲ願ミス之ヲ實施セシ
 トスルモ前隙ノ如ク未ク開進セサル今日ニ在テ内地一般ノ方法ハ
 何分施行難相成候條從前ノ通假地券ヲ下與シ將來島地ノ狀態一段
 相進候日ヲ俟テ實地御施行相成候様致度此段及上申候也

(指令) 第六八五二号

書面上申之趣認許難相成候事

但規則施行以來從前ノ地券ヲ以下渡候分ハ速ニ書換下附スヘ

第九類 郵便

(一) 郵便爲替貯金 明治廿一年四月二日第五百七十二號ヲ以
 テ遞信大臣ヨリ遞信管理局ヘ達

其管理區内小笠原島郵便局ヘ來ル五月一日ヨリ郵便爲替及貯金事
 務一同開施可致候條其旨同局ヘ示達スヘシ

但爲替現金ハ島廳ニ委托保管セシム可シ

(二) 郵便局爲替貯金事務所開設 明治二十一年 月 日
 本府達

本年五月一日ヨリ其島郵便局ニ於テ郵便爲替貯金事務所開設可相成

ニ付現金保管方不取締無之様取斗フヘシ

(三) 貯金所設置

明治廿年十月廿七日
稟請

(参考)當小笠原島金融之儀ハ一航海間則チ三ヶ月間ハ人民相互ニ金錢ノ受渡シヲナスモノ之ナク仮令雇賃ヲ拂フモ此間米穀其他衣類等ヲ以テ之ニ替ヘ又官廳ヨリ支拂金アルモ定期船入港ノ頃ナラサレハ請求不仕邂逅襲ニ收ムル者アルモ盜難ヲ憂ル如キ有様アルハ元來島民ノ衆ハ烏合無志ノ徒ニシテ金錢アレハ博奕ヲ隆ナラシメ猶女子ニシテ之ヲナシ傲然トシテ耻ルナキハ他ニアラサルナリ即チ貯金預リ所等ノ設ケナキト其他ニ殖利増本ノ途アラサルニ據ル然リ而シテ本島ノ儀ハ追々人口増殖シ從テ資本ヲ敷キ物産ヲ繁盛ナラシメントスル者ナレハ今日之ヲ設置スル最モ急務ニ有之候條速ニ驛遞貯金所ノ類御開設相成様致度此段及稟請候也

(四)

貨幣封入郵便物取扱

明治十六年十一月
二日本府達

其嶋ヨリ發スル貨幣封入郵便物ノ義ハ當府下ニ宛タル者ニ限リ三十圓以上ノ金額ヲ封入シタル者ト雖モ取扱候義驛遞局ト協議濟ニ付別紙ノ條々相心得不都合無之様可取計此旨相達候事

但爲心得驛遞局ヨリ共同運輸會社へ與タル命令書寫下渡候事

- 一 貨幣封入郵便物ヲ差立ルキハ送り狀并ニ遞送料共併テ共同運輸會社船長又ハ會計役へ相渡請取証徴収スヘシ
- 一 照合ノ爲メ印鑑一葉下渡候ニ付共同運輸會社船長又ハ會計役へ貨幣郵便物相渡候キハ該印鑑篤ト照合スヘシ
- 一 右郵便物ノ遞送料金三十圓以内ニ對スル分ハ郵便心得第十二章ノ通り金三十圓以上ニ對スル遞送料ハ左記ノ割合ヲ以テ差出人ヨリ徴収ノ上第一項ノ通り取扱フヘシ

金四拾圓迄

金四拾二錢

金五拾圓迄

金四拾九錢

金六拾圓迄

金五拾六錢

金八拾圓迄

金六拾三錢

金百圓迄

金七拾錢

金百圓以上ハ百圓ニ對スル賃錢ノ割合ヲ以テ徵スヘシ

一右郵便物遞送料ハ從前東京ヲ以テ發着地ト定メアリシ處自今

金高ノ三拾圓内外ニ拘ラス小笠原嶋ヨリ到着地迄ノ里程ニ應

シタル遞送料ヲ徵収スル義ト心得ヘシ

一右郵便物ニ對スル郵便稅ハ該條例第十章ノ通心得ヘシ

一郵便條例郵便心得各壹部下渡候事

第十類 學務衛生

(一) 學校敷地 明治二十年七月廿一日伺
明治廿一年一月十一日指令

當小笠原嶋小學校ノ儀ハ舊內務省所轄中明治十一年四月中扇浦ニ設ケ筆墨紙ニ至ル迄悉皆官費支給シ來候末十二年十月本府へ所轄換ノ節定額金減少ヨリ在勤官モ亦隨テ減少シ學費ノ之ニ給スル途ナク官吏ノ之レヲ授クヘキモノナク殆ト廢校ノ姿ニ立至リタルニ付明治十五年五月中當時在勤南貞助ヨリ景況ヲ詳具シ別途御下金相成リタルヨリ日ニ月ニ就學者増加シ近年大村學校一ヶ所ニテハ父島タケノ教授ニモ差支之レニ加ルニ扇浦ノ兒童生天風雨ノ日山海(陸地一里廿三町) 遠路大村迄通學難致ニ付明治十八年四月中人民協議致シ有志金ヲ募リ扇浦へ學校ヲ設ケ分離候又母島ニ於テモ頻リニ學校設立ヲ希望シ明治十九年七月中有志者申合一校ヲ建築セリ而シテ各學區ノ歸化人移民ノ別ナク前日ノ比ニ非ス學業進

涉知識ノ發達候ハ期シテ待ツ可キナリ之ノ官府ノ獎勵ニ振起セラ
 ルト雖モ島民進取ノ氣力モ亦少クニ非ルナリ故ニ今般父島大村學
 區域内(大村與村 宮ノ濱)人民一同協議ノ上從前ヨリ官立ニテ保護相成
 居リタル大村學校地所及(二百四十坪)有形ノ建物其儘學區域内人
 民へ無代價ニテ御下附ノ義請願致候之レ全ク官府ノ獎勵ヲ貫徹致
 人民應分ノ義務ヲ盡クスノ意ヨリ出タル儀ニテ御下付ノ上ハ向來
 其建物ニ係ル費用ノ如キハ悉皆負擔可致旨申出候ニ付尙一層開進
 ノ獎勵ニモ相成候條右願意開届可然哉此段相伺候也

(指令)第一六四號

書面伺之通取計フヘシ

(二) 藥價徵収

明治二十年五月
十九日上申

當管下小笠原島ノ儀ニ付テハ赴任以來勉テ實況ヲ得ンカ爲メ篤ト
 調査相遂ケ追々上申仕候通り未タ開拓ノ業起ラス物産ト稱スルモ
 ノ僅々指ヲ屈スルニ足ラサル次第ニハ候得共能ク忍堪シ不便ヲ不
 顧各自業務ニ奮勵罷在候ヲ以テ近頃漸ク振盛ノ有様ニ傾向候様被
 存候然ルニ島民病疴ニ罹リ投藥候儀ハ貧富ヲ問ハス十日以内ハ藥
 價ヲ徵収シ其余ハ何十日間ニ涉ルモ無代價ニテ投藥候習慣ニ有之
 其實況タルヤ山中ニ在住シテ開墾等ニ從事候者ハ自然健康ニシテ
 在廳大村居住ノ遊民共ノミ多ク就テハ極貧ヲ除クノ外一般ニ藥價
 徵収致候間御開置相成度此段上申候也

追申今回島民生活上及島産ノ儀ニ付相當ノ保護致候上ハ本文藥價
 取立候共聊苦情有之間敷ト存候此段添申候也

(三) 傳染病豫防費

明治十九年十一
月十五日上申

養キニ衛生費御下附之義ニ付及上申候處今般難及詮議定額内ヲ繰
 合支辨スヘキトノ御指令之趣謹承仕候然處道路溝渠等ノ清潔法ヨ
 リ日常衛生ニ要スル方法ノ如キハ無論十分注意可仕候得共現ニ本
 年二月天然痘發生ノ際殆ント流行ノ兆ヲ現シ既ニ之カ爲メ死亡シ
 タル者モ有之加フルニ内地ニ於テ年々虎列拉流行ノ事モ有之候得
 者何時當地へ傳播候哉モ難斗若シ一タヒ前顯ノ不幸有之豫定ノ費
 用ナキカ爲メ姑息ノ處分ニ及ヒ候テハ全島ノ民命ニ關シ容易ナラ
 サル義出來可申歟ト不堪掛念候得共最早本年ハ年度ノ半部ヲ過キ
 且好氣節ニモ向ヒ船便モ僅ニ一回ニ過キサレハ本年度中ニ在リテ
 ハ先異狀有之間敷ト存候條特別ノ御詮議ヲ以テ二十年度豫算ハ編
 入御下渡相成候様致度不願忌諱再度及上申候也

(四) 衛生費 明治二十年一月 日
 第二部長ヨリ通知

客歲十一月十五日付ヲ以テ御上申有之候衛生費二十年度歲出豫算
 書へ編入御下渡ノ儀ハ御認許難相成旨今般御指令相成候右ハ全年
 度豫算編製ノ期節既ニ經過セシカ爲メ御認許不相成次第ニ付廿一
 年度經費細目豫算書御進達ノ際ハ御見込金高地方費中目節ニ分テ
 御編入可有之去廿年度内ニ於テ惡疫流行ノ徵候有之萬不得止ニ際
 シテハ臨時増額御請求ニテモ可然候間爲念此段申進候也

第十一類 定期船

(一) 帆船ヲ汽船ニ變換 明治廿一年六月十九日内務省へ伺
 全年六月二十五日指令
 當廳所轄小笠原島定期航海船ノ儀ハ從來郵船會社ニ命令シ一ケ年
 金五千圓ノ航海費ヲ下付シ航行致來候處百事改良ヲ謀ルニハ汽船
 ヲ使用候必用ヲ感シ候而シテ獨リ小笠原島而已ナラス八丈三宅ノ

兩島へ寄港爲致候キハ官民其便利ヲ得候事不少ト思考シ昨八月ヨリ試ミニ汽船ヲ使用候處果シテ人口増殖隨テ物産擴張ノ景況ニ有之候間愈以テ風帆船ヲ廢シ汽船航行ニ相定申度然ルニ該下付金ニテハ會社ニ於テ費用相償兼候ニ付更ニ一ケ年金六千二百圓ト相定メ來ル七月ヨリ右ノ割合ヲ以テ航海費下付致候條此段上申候也

(指令)

上申之趣聞置シ

(二) 定期帆船ヲ汽船ニ改ム 明治二十年七月六日上申
同年七月九日指令

小笠原島定期船ノ儀ハ一ケ年四回風帆船ヲ以テ航海致シ居候處該島ノ事業百事改良ノ計畫ヲ爲スニハ差向キ定期船ヲ汽船ニ改ムル

ニアリ然ルニ風帆船ノ費用ヲ以テ汽船ニ換ユルヲ能ハサルニ付更ニ本島ノ定期航海船ヲシテ三宅八丈ノ兩島ニ寄港爲致該島人民及ヒ荷物ノ運搬ヲモ致シ候ハ、本船ノ費途モ減シ且該島ノ連絡相通シ將來ノ便利不少依之右費用會計課ニ於テ取調候處別紙概算書之通り金三百八拾餘圓ノ不足ヲ生スレド此不足金ハ島廳々費中ヨリ流用可致見込ニ之レアリ候間先以テ來ル八月ノ一期ヲ試ミノ爲メ御用船トシ汽船ヲ以テ航海爲致候様仕度此段上申候也

(指令) 第一四一五號

書面來ル八月定期航海船汽船ヲ以テ航行ノ儀聞届候事

但經費流用之儀ハ精算之上更ニ伺出ヘシ

(三) 定期船 明治二十年八月十九日稟請
同年十月十四日指令

當八月便ノ儀ハ汽船ヲ以テ渡航ノ儀先般上京ノ上親ク其事情ヲ開

陳シ及稟請候處御認可相成已ニ千歲丸ヲ以テ回航相成リタルニ大ニ貨物ノ積量ヲ増加シ爲メニ横濱解纜ノ際十分ノ三以上ノ荷物積殘シタル有様ニ有之最モ八丈地方等ハ勿論當島ヘ往復スル者ハ非常ノ幸福ヲ感スルニモ不係今回ノ如キ噸數ノ船ニテハ貨物運搬上差支候而已ナラス到底島内繁殖ノ途無覺束乍去今便限リ漁船ナルモハ島民ニ於テ食糧等ノ不足ヲ醸シ旁遺憾ナル儀ニ候條篤ト取調候處別紙豫算ノ如ク不足相生シ可申候得共本年度經費豫算此上一層節減ヲ加ヘ流用支辨可致候間次便ハ六百噸以上ノ漁船ヲ以テ回航候様致度猶詳細ノ儀ハ今般出張相成候屬加藤信任ヲ以テ具狀可爲致此段及稟請候也

(指令) 第九〇三五號

書面稟請ノ趣聞屆當期ニ限リ漁般明治九ヲ以テ航行爲致候條費用

等ノ儀ハ更ニ取調ヘ伺出ヘシ

(四) 母嶋へ定期船寄港

明治二十年十月廿七日稟請
明治廿一年一月十三日指令

(五) 當管下母嶋住民ノ儀ハ輸出入品共定期船寄港セサル爲メ父島

人民ニ比スレバ幾倍カ損失ヲ蒙リ居リ候得共既往ニ於テハ未ツ移民ノ多カラサルニ依リ從テ物産共輸出入ノ額僅少ナリ猶且年々歳々經費ノ節減アルヲ以費用上ヨリ寄港セラレサリシモ追々移民増殖輸出入品ノ數御用物ノ外ハ却テ父島人民ヨリ巨額ニ達シ可申ニ付自今寄港ノ儀別紙ノ通願出候ニ付テハ實際相違無之候條次便ヨリ一日間宛寄港爲致度候條郵船會社へ御命令相成度此段及稟請候也

(指令) 第一四一號

書面定期航海船ヲシテ母島へ寄港之儀聞屆當期ヨリ父島碇泊五日

間ノ内ヲ以テ一日間母島へ寄港セシム

(参照) 郵船會社へ命令 明治二十年 五月廿六日

其會社ヲシテ當廳所轄三宅八丈鳥島及ヒ小笠原島へ定期通船セシムルニ付命令スル所左ノ如シ

第一條 航海ハ一ヶ年四回ト定メ左記ノ日割ニ依リ横濱ヨリ發船スヘシ

毎年 一月十五日

四月五日

七月 五日

十一月五日

第二條 前條發船ノ期日ヲ定ムルト雖モ事宜ニ依リ伸縮セシムルヲアルヘシ斯ノ場合ニ於テハ發船豫期一周間以前ニ於テ變更ノ期日ヲ達スヘシ

但歸航ノ節ハ事宜ニ依リ小笠原島應ニ於テ期日ヲ伸縮スルコト

ルヘシ

第三條 前條ニ依リ既ニ定期シタル日限ニ差迫リ發船準備整頓ノキニ際シ延期セシムルキハ其費用トシテ一日金百三十拾圓ヲ交付スヘシ

第四條 發程ニ臨ミ風波等ニテ事實己ムヲ得サルキハ多少拔錨ノ期ヲ伸縮スルヲ得ルト雖モ當廳又ハ小笠原島應へ申出許可ヲ受ク可シ

第五條 船舶ハ其會社ノ適宜ニ任スト雖モ總噸數六百五拾噸以下ノ船ヲ使用スヘカラス

但貨物僅少ニシテ六百五拾噸以上ノ船舶ヲ要セサルキハ右噸數以下ノ船舶ヲ使用スルヲ得ヘシ

第六條 航海費補助金トシテ一年金六千貳百圓ヲ四回ニ分テ每期歸

航ノ上其會社へ交付スヘシ

第七條 航海費補助金ヲ交付スルヲ以テ當廳ヨリ各嶋へ往復スル御用金御用狀箱及ヒ諸器械等ノ類ニシテ官廳ニ於テ使用スルモノハ噸數三十噸迄ハ運賃等別ニ交付セス

但本文三拾噸以上ニ及フモノハ相當ノ運賃ヲ交付スルト雖モ府廳ト島廳間ノ往復御用物ニ限り父島ニ於テ官船ヲ以テ解積等ヲ爲スニ依リ普通運賃ヨリ壹噸ニ付金貳拾錢ヲ減スルモノトス

第八條 各島碇泊時間ハ往航三宅島半日八丈島一日鳥島半日小笠原島五日此内一日母島へ航行セシム復航鳥島半日八丈島一日三宅島半日トス

但一日ハ二十四時間ノ割ヲ以テ計算ス
第九條 前條ノ通り定ムルト雖モ事宜ニ依リ小笠原島ニ於テ滞留ヲ

命スル時ハ着港ノ日ヨリ六日以内ハ別ニ費用ヲ給セス七日以上ニ至ルキハ其費用トシテ一日金百三拾圓宛交付スヘシ尤風雨等ニテ實際荷物積卸シ成難ク碇泊延引スルハ此限ニアラス

第十條 三宅八丈鳥島ノ各島ニ於テ荷物積卸ノ節風雨ニ際シ定期ノ時間ヲ増スモ別ニ費用ヲ給セス

第十一條 事宜ニ依リ属島へ航海セシムルキハ其費用トシテ一日金百六拾圓半日ハ金八拾圓ニ交付スヘシ
但本文鳥島ニ於テ碇泊ノ日ハ前條ノ通一日金百三拾圓宛交付ス

第十二條 荷物受取渡ハ總テ本店支店ニ於テ取扱フヘシ尤船客船賃荷物運賃ハ既ニ認可シタル賃錢表ニ依リ船客荷主ヨリ受取ヲ得尤荷物積卸解船并人足賃ハ其會社ニ於テ之ヲ辨スルモノトス

第十三條 事宜ニ依リ船客船賃及ヒ荷物ノ運賃ヲ増減スルコトヲ得此
場合ニ於テハ當廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條 御用金ハ勿論御用物類本船中ノ過失ヨリ生スル損害ハ其
會社ヨリ辨償セシムルモノトス

第十五條 每期航海船出帆期日前十五日間船名等廣告スヘシ

第十六條 此命令ハ明治二十一年七月ヨリ二十三年三月迄ヲ以テ限
リトス尤モ期限内ト雖モ當廳ノ都合ニ依リ之ヲ解キ或ハ改正増補
スルコトアルヘシ

但改正増補ノ場合ニ於テハ其會社ニ於テモ相當ノ意見ヲ申立ル
コトヲ得

右條々堅ク遵守可致事

第十一類 會議所

乙參考 本府達 明治二十年
六月廿八日

其島會議所規則之儀自今廢止ス

(一) 會議所殘務取扱 明治二十年八月廿八日
第一部長ヨリ照會

今般其島會議所規則ノ義廢止相成候ニ就テハ該會議所ノ殘務ハ其
廳ニ於テ御取扱相成候儀ト御承知有之度此段爲念申入候也

甲參考 會議所中止案 明治 年 月 日
上申

明治十六年九月第八百九十一號ヲ以テ當小笠原島會議所規則制定
相成實施致來候處一昨十八年島民騷擾議員解散以來數回ノ撰舉會
ヲ開クモ僅々十余名ノ外都テ承諾狀ヲ呈出スル者ナク今後數回ノ
投票ヲ爲サシムルモ到底開會ノ場合ニ至ラサルハ必然ノ儀ト存候
案ズルニ議會ノ制度タル美ハ則美ニシテ社會ノ進歩スルニ從ヒ素ヨリ
必要ノ器械タルニ相違無之候得共當島于今租稅ノ制無之而已ナラ

ス住民ノ地位未ダ斯ノ點ニ達セズ乃チ當撰議員タル者ト雖モ多分
 一丁字ヲ辨セサル者ナレバ畢竟議會タルノ効驗ヲ見ル能ハサル而
 已ナラス動モスレハ却テ幾多ノ弊害ヲ醸成スヘキハ往日ノ經驗ニ
 於テ昭々タル次第ニ有之然レモ前日ニ開キタル議會ニシテ今日之
 チ廢止スルハ寧ロ其順序ヲ失ズルモノニシテ策ノ得タルモノニ無
 之候就テハ當分ノ内會議ヲ中止シ各村伍長ヲ以テ島内公共ニ關ス
 ル事項ヲ議セシメ度別紙御達案相添此段上申候也

(別紙)

明治十六年第八百九十一号ヲ以テ其島會議所規則相達候處議員當
 撰者少數ニシテ開會スル能ハサルニ付當分ノ内之ヲ中止シ各村伍
 長ヲシテ其殘務ヲ取扱ハシム

第十三類 雜

(一) 本府 号達 明治十九年 三月八日

其島難破船漂流物取扱費下渡ノ儀ニ付別紙寫ノ通主務兩大臣へ伺
 出朱書之通指令相成候條此旨相心得へシ

(別紙)

難破船漂流物取扱費 明治十八年十月十三日本府ヨリ上申
 明治十九年二月四日内務大藏兩省指令

從來管下小笠原島ニ於テハ浦役場浦役人ノ設置ナキヲ以テ難破漂
 流ニ係ル事務ハ當府出張所ニ於テ取扱來候處該島ニハ地方税ノ制
 度無之ニ付規則ニ定メタル其費用三分ノ一ヲ負擔セシムヘシヘキ
 費途並ニ其遭難者ニ對スル旅費手當等繰替金無之其都度取扱方差
 支候儀不少候就テハ右難破漂流ニ係ル費用來ル十九年度ヨリ豫算
 中經費ニ廻込ニ官費御下渡相成候様致度候遭難者ニ對スル旅費等
 繰替金ノ儀ハ本人無資力ニテ右金支辨シ難キ片ハ本籍地方税ヲ以

テ支辨スルノ例ニ候處前項已ニ述タル如ク該島ハ地方税ノ制度無之地ナレハ是又官費ヲ以テ支辨スルノ外無之ト存候條右御下渡相成度候

右兩項特別ノ御詮議ヲ以テ御允裁相成度此段及上申候也

但十九年度ニ於テハ前項ノ難破漂流物諸費ハ金五拾圓ト豫算相定候尤モ右金額ハ内地ニ比スレハ稍ヤ多キニ過キ候得共該島ハ内地トノ交通稀少ニ一年僅ニ四回ノ航海ニ過キサル程ナレハ遭難者滯嶋中ノ衣服食料其他雜費等ヲモ見込置キシニ付此費額ヲ要スル儀ニ付是又同項ノ費用三分ノ一及旅費等並後項旅費等十八年度ニ於テハ其都度實費ヲ以テ請求候様致度此段添申候也

(指令) 第四八九號

上申之趣特別ヲ以テ聞届候事

(二) 嶋會社

明治十三年二月二十二日
本府達甲第二十二号

條例規則ノ限ニアラサル諸會社設立ノ儀當廳へ出願致來候處左ニ掲ル會社者除クノ外ハ自今出願ニ及ハス候條設立スルキハ方法規則ヲ具シ其郡區役所へ届置ヘシ

此旨布達候事

水利堤防道路橋梁ニ係ル會社

水陸運輸ニ係ル會社

保險ニ係ル會社

私立銀行並ニ銀行類似ノ會社

明治十五年七月十五日追加
甲第七十号

漁業採藻ニ係ル會社

全年九月一日追加
甲第二百二十四号

貸倉荷預ニ係ル會社

全十六年六月十八日追加
甲第三十二号

伊豆七嶋ニ係ル會社

但從前設立ノ分ハ此際更ニ願出ツ可シ

全十九年九月府令第二十一号追加

鑛山燈臺電信ニ係ル會社

全二十年三月十八日追加府令第十三号

資本金十萬圓以上ノ諸會社

東京府令第五十号 明治二十年九月
一日追加

小笠原島ニ係ル會社

(參考) 島會社設立 明治二十年五月
十二日上申

當小笠原島開拓ノ業タル人或ハ難スル者アリ然レモ其法宜シキヲ

得ハ誠ニ容易ノ事トス唯今日迄未ダ一ノ見ルヘキモノキハ畢竟其
法ノ如何ト民心ノ區々タルニ職由ス殊ニ航海ノ不便ナルヨリ自然
物價高直就中其重ナル一例ヲ舉レハ白米壹俵常ニ四圓前後少シク
不足ヲ告グルルキハ忽チ五圓餘ニ昇リ又前金ヲ以テ内地ヨリ取寄セ
候ホモ運送費ヲ合算候キハ最下三圓三拾錢ニ下ラス其他ノ物品皆
之ニ準シテ高價ナレハ隨テ傭夫賃モ一日金三拾錢以上ヲ給與セサ
レハ使用スルヲ能ハス故ニ開墾シテ耕作スルモ雇賃並ニ内地ヘノ
運送賃等差引計算スルキハ収獲甚ダ薄ク寧ロ袖手ノ天產物ニ依ル
ニ如カスト一日開墾セシ土地モ再ヒ荒蕪ニ属スルノ景況ニ有之是
レ即チ明治九年着手以來既ニ十有余年ノ星霜ヲ經其費ス所ノ費途
モ不撓ト雖モ一ツノ見ルヘキモノナキ所以ナリ然ト雖モ物產ナキ
ニアラス少シク之ヲ勸誘セハ相應ノ物產ヲ起ス事敢テ難キニ非ス

ト信候得共其手段ノ内輸出入ノ平均最モ緊要ナレハ就中一ノ島會社ヲ設立シ依托商ノ途ヲ開キ人民必要欠クヘカラサル米鹽ヲ始ノ其他何品ニ拘ラス五分以内ノ手数料ヲ以テ輸出入物品賣買爲致之ニ加フルニ當廳爲替方並ニ郵便切手賣捌所驛遞金預リ所等爲取扱候ハ、官民共其便利不少儀ト存候間速ニ何分ノ御指揮相成度此段及開申候也

(三) 豫備米 明治二十年五月日上申

當島ニ豫備米設置之儀ハ實ニ必要ノ備荒ニシテ一日モ欠クヘカラ

サル論ヲ竣タス然ルニ從來ヨリ官庫豫備米ヲ設ケタルノ儀無之目下移民増加シ從テ物産大ニ起リタルノ折柄本島ノ如キ環海ノ孤島万一不量ノ變有之ニ於テハ第一米穀之外何ヲ以テ救済スルノ道無之然リト雖モ平素百俵内外ヲ蓄藏セサレハ之レカ救済豫備ト爲ス一ヲ得ス乍去右資金ニ付増額ヲ求ムルハ到底御認可不相成儀ト存候ニ依リ地方費ノ部ヘ豫備米費ノ目ヲ新設シ右ニ係ル費金ハ本年度ヨリ御下附相成候流行病豫防費衛生費ノ内ヨリ金三百圓ヲ流用支辨シ以テ白米百俵ヲ購入申度尤モ御令達之流行病豫防費金額ハ本年度ニ於テ餘贏可有之見込ニ付決テ差支無之候條至急御認可相成度此段及稟請候也

(四) 知事巡回ノ節具申セシ島況

警察上ノ實況

本島警察之義ハ從來備員ヲ以テ之ニ充テ或ハ差配方ヲシテ之ヲ兼シメ候ニ付自然島民ト相馴ル、ノ風習アルノミナラス警視廳出張員引揚ル後ハ別ニ勤務法モ無之巡查合宿所ニ居ルヲ以テ勤務トナス故ニ晝夜官民ヲ問ハス巡查合宿所ニ相會シ往々言語ニ絶シタル風聞アルヲ以テ本年二月巡查ノ名稱御許可相成候ヲ機會トシ巡查六名ヲ八名トナシ官廳所在ノ大村ニハ定員四名扇浦分署母島沖村分署ニハ各二名宛ヲ配置シ甲乙二部ノ當直トナシ更ニ島廳内ニ詰所ヲ設ケ晝夜ニ回受持部落ヲ巡回シ且島廳受付等ノ雇員並ニ吏員ヲ當直チ廢シ巡查ヲシテ一般ノ受付ヲナシ毎日勤務三名ノ内二名ハ詰所一名ハ監獄ノ看守ヲナサシメ候ヨリ漸次取締モ行届強竊盜ハ勿論喧嘩口論等之レナキ様相成候得トモ動モスレハ精業者ノ妨

害ヲナスモノ有之既ニ先便製糖者保護ノ爲メ内地ヨリ桶職壹人呼寄セ日々其業ニ従事セシメ候處或夜其業必用ノ器具三個ヲ竊取シ之ヲ海中ニ投セリ其所爲最モ惡ムヘキ事ニ付嚴重搜索犯人取押糺問ノ未投棄セシ場所ヲ尋テシニ二個ノ内一個發見致候ヘトモ他ノ二個ハ購求スヘキノ道無之空シク營業相休ニ候次第畢竟情者勝ヲ占ムルノ風未タ脱セサルノ致ス所ナリ

監獄在監者ハ常ニ五六名ニ過キス而シテ食料ハ普通ノ賄壹人一日金拾錢宛ヲ支給シ來リ候ヘ共甚タ過當ニ付本年五月以來壹人一日金六錢三厘ニ改メタリ又看守人ハ是迄土地ノモノヲ雇上ケ監視セシメタル故種々弊害ヲ醸シ懲戒ノ旨趣ニ相悖リ候間本年七月中御許可ノ上巡查ニ看守ヲ兼テサセ晝夜一名ツ、勤務セシメ取締方モ確然致候今監獄費ノ内囚人ニ係ル本年度半期分ヲ計算スルニ金百

拾三圓九拾六錢六厘ニシテ工賃ノ收入百八圓四拾六錢七厘差引支
出ノ過僅ニ金五圓四十九錢九厘トナル是レ全ク傭工賃ノ高價ナル
ニ由ル

殖産上ノ景況

本島ハ温帶ヨリ稍熱帶ニ近キヲ以テ年中華氏寒暖計最高九拾五度
最低六拾度位ナリトス故ニ草木皆常綠ニシテ就中綿甘蔗茄子南瓜
等ノ如キ春三四月ノ交一回播種スレハ別ニ懇到ナル培養ヲ要セス
二三年乃至七八年間依然繁殖スルヲ以テ一年數回収獲スルヲ常ト
ス唯年々一二回ノ風害ニテ農家積日ノ勞苦水泡トナル憂アルヲ以
テ進テ農事ニ勉勵スルモノ少ク多ハ島廳ノ土木工事ニ依頼シ一旦
開キシ土地モ自然荒廢ニ屬シ候次第ナレモ近年嶋廳ニ於テモ敢テ
勸誘セサリシモノ、如シ故ニ殖産費ハ年々減少シ漸次衰態ノ有様

ニ付之ヲ挽回致度左ノ各項ニ注意シ獎勵致シ候

第一植物試驗場 是ハ從來ノ試驗場五百坪余ヲ擴張シ千七百坪余
外ニ千坪ヲ附屬地トナシ都合貳千七百坪余ヲ蔬菜園ト稱シ專ラ内
外ノ穀菜類ヲ試驗シ適切ト認ムルモノハ苗又ハ種子ニテ島民ヘ無
代價或ハ低價ニテ拂下シルノ計畫ニ有之本年二月以來内外穀菜類
百余種ヲ栽培セリ今其稍ヤ適切ナルモノヲ舉クレハ米國綿米佛菜
豆類佛國萬苣類米國馬鈴薯米國葱米國茄子類米清瓜類米國苜蓿蘆
粟粟黍稷等ニシテ就中米國綿ハ六拾坪ヲ一畫シ普通ノ方法ヲ以テ
栽培セシモ其成長頗ル宜シク實綿六貫百匁ヲ得タリ又從來植付テ
リシ沖繩芭蕉ノ纖維ヲ採取シ目下機械最中ナリ創始ノ際殊ニ織工
ノ未熟機具ノ不完全賃錢ノ高價トニ依リ一反凡金拾貳三圓ナルヘ
シト雖モ今后沖繩縣ノ慣行法ヲ參酌シ着々歩ヲ進メハ或ハ本島物

産ノ一トナラシカ

第二植物試験場 大村字監倉脇ノ地所三千五百坪余ヲシテ本年三月開墾ニ着手シ同五月落成之ヲ苗木園ト稱シ已ニ植付ケタルモノ内地産ノ柑類五拾六本梨三拾三本レモン百貳拾本マニラ二百五拾株パイナップル千株別ニ苗床ヲ設ケ十月中レモン種三升余ヲ時付ケタリ然レモ内地産ノ植物ハ未タ風土ニ慣レサル爲メカ都テ生長惡シ

附云「ゴム」樹ハ本島風土ニ適シ生長甚タ宜シク殊ニ將來望ヲ屬スヘキモノナレハ漸次増殖ヲ計ラント欲ス

勸業仮列品場 舊醫務所ヲ以テ之ニ充テ島産海産品類ヲ蒐集シ衆庶ノ便覽ニ供センカ爲メ目下品類採集セリ本年二月便ニテ購求セシ玉蜀黍機械三臺ヲ右場中ニ搬付官用ノ外一般志望者ヘ貸與セシ

處其構造ノ輕便ニシテ人カヲ省クノ效用多キヲ知ルニ至レリ

茄非山 明治十二年四拾餘町歩ヲ開墾シ同十三年二月初メテ茄非ヲ植付定雇夫拾二人ヲ以テ之ヲ擔當セシメ專ラ培養セシニ由リ同十六年頃ハ結實頗ル多ク東京ヘ輸送シテ其評價モ宜シカリシ由ナレモ十七年以後ハ別段手入ヲナサス過半ハ蒸餾シテ僅カニ生息ヲ保ツノミ本年二月以來少シク手入ヲ爲セシニ該山西北ノ一部東南ノ一部ハ稍ヤ回復ノ姿ニテ一本ニ付多キハ三四升ノ結實アリト雖モ鼠害多ク殊ニ島廳ト隔絶ノ地ニアリ手入方ノ不便ト到底収支相償フノ見込ナキヲ以テ島民中志望ノ者アラハ現品又ハ収入ノ幾分ヲ上納セシムル方法ニテ貸與スルノ考按中ナリ

丈間山 従前ハ別ニ管理ヲ定メス志望者取テ以テ已レカ有トセシカ會議所設立後ハ壹貫目ニ付收入幾分ヲ納メ之ヲ採取シタルモノ

アリシ由ナレトモ明治十八年會議所中絶セシヨリ島廳ノ管理トナシ
 猥ニ採集スルヲ禁セリ然レモ竊取スルモノ多ク去リトテ島廳隔絶
 ノ地ナレハ管理法充分行届カス依テ島民中志望者へ貸與シ現品又
 ハ其收入ノ幾分ヲ納メシメハ却テ官民ノ兩便ト存シ目下其考按中
 ナリ

甘蔗 本島重ナル産物ニシテ多ク父島ニ栽培シ然レモ一年一二回
 暴風ヲ口實トシ往々放置スルモノナキニシモアラヌ依テ本年
 二月以來島民ヲ勸誘シ製糖器械并ニ砂糖買入等種々ノ保護ヲ與ヘ
 シ故忽チ一般ノ氣勢ヲ惹起シ北袋澤村ノ如キ已ニ荒蕪ニ属シタル
 地モ皆甘蔗畑ニ變シ従前ニ比スレハ廿餘町歩ヲ増セリ故ニ一年漸
 ク三四百樽ノ輸出ナリシ處本年ハ千樽以上ノ豫算ニ之レアリ目下
 製糖ニ着手ス

附云本年十月廿五六兩日ハ南風頗ル強ク甘蔗モ幾分カ損傷シタ
 レトモ未タ大害トナヌニ足ラス

草綿ハ甘蔗ト並列スヘキ本島ノ産物ニシテ多クハ母島ニ栽培ス該
 島ハ一般ノ氣勢農事ニ傾キ取分ケ草綿栽培ニ勉勵スルヲ以テ輸出
 モ年一年ヨリ増加ス加フルニ本年ハ琉球表買入其他種々ノ保護ヲ
 與ヘシカハ益氣勢勃興セシ處草綿ノ發芽後降雨絶テ無之多少收入
 ヲ減セリ然レモ尙ホ貳千圓余輸出ノ見込ナリ

山藍 従前長谷村ニ於テ小林彦九郎荒井義邦等僅ニ餘業トシテ裁
 培セシ位ナリシカ本年ハ島廳ノ獎勵ト八月便ニテ東京ヨリ竹内藍
 會社々長竹内萬次郎ナルモノ渡島藍蒔試驗ヲ爲シ好結果ヲ得且ツ
 右生産者ト特約ヲナセシヨリ氣勢頓ニ勃起已ニ栽培地拾餘町歩
 及フ畢竟山藍ノ本島ニ適スル所以ハ氣候温暖ナルハ勿論最モ恐ル

又キ風害ト鹿害ナキカ爲メナリ島民モ亦雜作ヲ廢シ專ラ山藍トナ
 スノ傾向アレハ將來島産中其首位ヲ占ムルニ至ルモ測ルヘカラス
 檸檬 將來最モ望ミアル産物ナレ是迄ハ北袋澤村和田謙造川島
 卯八等其栽培ニ從事セシノミ本年ハ官廳ノ獎勵ニ依リ植付ニ着手
 スルモノ種子ヲ蒔付クルモノ頗ル多ク今後五七年ヲ經ハ東京都人
 モ檸檬ノ芳香ヲ嗅クニ至ラン
 海産 己ニ世人知ル如ク捕獲スヘキ魚類頗ル多シト雖モ僅ニ蠔龜
 鮫等ヲ捕獲シ之ヲ内地ニ輸出スルノミ畢竟嶋民資産少ク結合心ニ
 乏シキノ致ス所ナリトハ云ヘ常ニ寶山ヲ傍觀スルノ憾ナキ能ハス
 由テ漁業ニ從事スルモノヲ召集シ屢勸誘セシ處近日組合法ヲ設ケ
 漁業具ヲ購求シテ先ツ二見港内ニ群集シ來ル鮫鱈飛魚等ヲ捕獲シ
 漸次鯨獵ニ及ホスノ計畫ナリ

衛生

島民病ニ罹リ候節ハ貧富ヲ問ハス無代價ニテ投藥シ其費用ハ雜費
 ノ目ヨリ支出シ來候得共當初移民稀少百事創業ノ際已ムヲ得サル
 ニ出テ候事遂ニ習慣トナリ今日ニ至リテハ人口モ漸次増殖シ有限
 ノ雜費ヲ以テ無限ノ藥價ニ投與スル事ハ能ハサルノミナラス其投
 藥セシ統計ヲ閱スルニ山間ニ居住スル專ラ開墾ニ從事スルモノニ
 少ク却テ在廳大村ニ居住シ優遊其日ヲ暮スモノ并ニ遊女等ニ多ク
 是ノ畢竟無代價投藥ノ弊ト推考候ニ付本年九月一日ヨリ藥價ノ原
 價ヲ拂ハシメ之ヲ醫員ノ所得トナシ藥品ハ醫員ニテ自辨シ從來ノ
 諸器械ハ醫員ヘ貸與スル事ニ改正セリ然ルニ從來ノ醫務所タル狹
 隘ニシテ不便ナルヨリ巡查合宿所ヲ醫務所トナシ更ニ病室ヲ設ケ
 重病者ニ便ス本島ノ民家ハ一般小屋掛同様ニシテ土間若クハ板間

ナルヲ以テ病者ノ寢室ニ適スルモノナク重病者ニ至リテハ實ニ見ルニ忍ヒサルノ慘狀有之現ニ鈴木清三郎ナルモノ脱疽病ニ罹リ自宅療養其效ナク且ツ知己親族皆ナ不治ノ症トナシ捨置キ候義憫然ニ堪ヘス右病室ニ入レ切斷術ヲ施シタル後チ充分手當致候處即今不具ノ身トナルモ手内職ヲナシ一身ノ生計ニハ支障無之爾來島民モ漸ク病室ノ貴キヲ知ルニ至レリ又本島ハ氣候常ニ温暖ナルヲ以テ病者少キ割合ナルニ却テ一ヶ月百人ニ對シ三十四人四分ニ當ルヲ以テ見レバ初渡者異風ニ感スルノ致ス所ナランカ今生者ト死者トヲ比較スルニ一ヶ年平均生者十人ニ死者四人ナリ斯ノ如ク彼是相反スルノ結果ハ移民中老者ヨリ壯者ノ多キニ由ルヘント雖モ要スルニ氣候温帶ニ基スルカ如シ假令ハ内地ニテ子ナキモノ移住后直チニ懐胎スルモノアリ以テ其証トナスコ足ラン當島眼病者ノ割

合ニ多キハ煤毒ノ質父母ニアルカ故ナランカ元來移民中八丈嶋ヨリ渡來セシモノハ多ク此氣ヲ隱含スルノ由縁ト信スルナリ客月中旬ヨリ父島與村ニ於テ類似「ジフテリア」病ヲ發シ追々蔓延ノ兆候アルヲ以テ醫員ヲ派シ嚴重ニ豫防ノ術ヲ盡サシメタルモ通學生ノアリタルタメカ大村地方ニ於テ續々感染ノ有様アリ依リテ一時通學ヲ止メシメタルモ氣候變遷ノ時ニ際スルト人民ノ衛生法ヲ貴ハサル所以ト信ス

本島蒼蠅ノ多キハ己ニ人ノ知ル所ナレド本年五月以來蠅龜屠殺魚鴈投棄塵芥溜置場等チ一定セシメ專ラ清潔法ニ注意セシヲ以テ稍減却ノ兆候アリ

開墾地并ニ地券書換之實況

開墾地下渡ノ義今春以來出願者甚タ多ク此ノ勢ニテハ到底停止ス

ル所ヲ知ラス是レ今般土地下渡規則ノ改正ヲ要スル所以ナリ今試
ニ本島創業即チ明治九年ヨリ同十九年ニ至ル滿十一ケ年間ニ下付
シタル土地ノ數ヲ擧クレバ僅ニ百五拾貳町步餘ニ過ス然ルニ本年
二月ヨリ八月新規則發布マテ已ニ下付シタルモノ無慮百七拾町步
餘ナリ之ヲ創業以來十一ケ年間ニ下附シタルモノト相比スレバ其
差十八町步餘ナリト雖其年限ヲ問ヘハ僅ニ六ケ月ニ過キス是島民
一般實業ニ傾クノ兆候ナランカ
仮地券書換ノ義ハ已ニ明治十八年中御達相成速ニ着手スヘキノ處
荏苒今日ニ至リシ所以ハ開墾地ノ反別實際願書面ト齟齬シ之ヲ測
定スルハ容易ノ業ニアラサルヲ以テ遂ニ茲ニ至レルナリ依テ本年
五月其事情ヲ具シ相伺候處御指令ノ次第モ有之候ニ付實地調査ノ
上從前下渡ノ願面ト相違ノ分ハ更ニ出願ノ手續ヲサシメ一筆毎

ノ本地券ヲ下附スル事ニ決定目下着手中ナリ

學校費改正并ニ教育ノ實況

本嶋小學校ハ大村ニ一ケ所(生徒三十)扇浦ニ一ケ所(生徒三十)母
島ニ一ケ所(生徒十九)併セテ三ケ所ニ有之然リ而シテ學費ノ儀ハ
補助費ノ名義ナルモ其實悉皆官費ニテ生徒ノ筆墨紙ニ至ルマテ支
給シ來リ候得共漸次人口増殖ノ今日ニシテ從前ノ儘据置キ候時ハ
自然費用ニ不足チ生シ候而已ナラス保護ノ厚キニ失シ候弊害ナキ
ニシニモアラス就テハ書籍筆墨紙等ハ都テ生徒ノ自辨トナシ教員
給料ノ外雜費トシテ一ケ年一校ニ付金拾八圓宛ヲ補助シ其他ハ悉
皆民費ヲ以テ支辨セシムルヲ改正本年六月ヨリ實地施行セリ目
下生徒ハ益増殖ノ勢ニテ學齡中就學セサルモノ僅ニ十八ニ過ス此
十八タル全ク山間ニ僻在シ通學ノ不便ヨリ已ムチ得サルニ出テ加

之本年三月ヨリ大村扇浦兩校へ英語科ヲ設ケ本嶋出生ノ歸化人ニシテ曾テ神戸港ニ於テ英學ヲ修業セシ「ジョゼフゴンサー」并ニ「フイレヤレツワー」ヲ教員トシ每週四時間ツ、教授セシムルニ頗ル進歩ノ景況アリ

土木ノ事業

土木ハ今春來著シキ事業ナシト雖突堤延長四拾間餘ノ處漸ク其半ハニアリシカ東京ヨリ更ニ石工二名ヲ雇揚ケ手傳人夫ヲ増加セシヲ以テ忽チ竣功セリ然ルニ最初ノ計畫ノミニテハ未タ完全セサル處アリ由テ再申ノ上十五間曲リノ繼足チナシ本年六月起工セシ所最早落成ノ場合ニ至リ今日ニ至テハ悔ユルモ詮ナキ次第ナレ僅カニ二三町先キノ清瀬ト云フ處ニ此工事ヲ起ス時ハ汽船ノ横付ヲ得ル而已ナラス年々人口増殖ノ計畫ニハ尤モ妙ヲ得タルモノナラ

ン歟ト思考セリ本年ノ道路修繕ハ延長千五百六十九間架橋二十八ヶ所トス抑モ架橋ノコタル從來内地ヨリ檜材ヲ取寄セ煥然タル木橋ヲ架セシモ本島ハ未タ牛馬荷車等ノ通行無之土地不相應殊ニ無益ノ費用ヲ要スルヨリ在來ノ雜木橋又ハ土橋ニテ充分ナリト思量シ已ニ十四五所ヲ試ミシニ啻ニ費用ヲ減スルノミナラス保存期限モ亦勝ルトモ劣ルコトナキヲ信ス

石材モ都テ東京ヨリ取寄來リシ處莫大ノ費用相嵩ミ候ニ付島内ノ石材ヲ使用セント欲シ山中又ハ海岸等搜索セシメシニ大村三日月山中稍ヤ適當ノモノ有之爾來此石材ヲ用ユルニ石質ハ伊豆産ニ及ハスト雖モ石垣材ニハ充分ナルカ如シ

本島ハ暑氣甚シク三伏ノ交道路通行難成程ナレハ公道ノ兩側ニハ二間隔位ニ「ゴム」タマナシ等ヲ植付クル計畫ニテ本年五月中先ツ

官廳前通り「エム」樹八十七本ヲ植付ケシニ皆ナ能ク生テ保テ漸次繁茂ノ景況ナリ

人口風俗

本嶋移民ノ原素ハ外國ニシテ天保年間初メテ居ヲ占メ其人種多クハ「カナカ」群島ノ人種ナリシカ其後悉ク我邦ニ歸化シ現今男女合セテ七十餘名アリ蓋シ鯨獵船ノ水夫等竊ニ船ヲ脱シ爰ニ居住セシモノナラン故ニ其俗習極メテ野卑眼中一丁字ナキモノ多シ又内地ノ移民ハ明治九年以後追々移住シ現今七百五十五人（内地ノ者四百七十七名）有之今三ヶ年前ニ湖ノ之ヲ調査スルニ去ル十八年一月一日現在高四百九十八人（男三百二十二）ナリシカ今日ノ景況ニテハ每航海百名内外ノ渡航者有之其内新舊合テ五六拾名位歸國スルモノアレハ全ク五拾名内外増殖スル割合ナリ本年八月ヨリ

定期船ヲ汽船トナシ三宅八丈兩島へ寄港スルヲ以テ今後人口ノ増殖期シテ俟ツヘキナリ然レモ移民タル貧民殊ニ破産失敗依ルコ地ナキノ徒多ク故ニ怠惰安佚ニ流レ偶々實業ニ熱心スルモノアレハ却テ之ヲ嫌忌シ自然勉者モ惰者ニ壓倒セラル、ノ風習アリ由テ今春以來專ラ實業者ニ向テ保護ヲ與ヘシヨリ多少感覺スル所アリテカ亂酒放縱ノ徒稍ヤ相減シ従前荒蕪ニ属シタル土地モ俄ニ手ヲ入レ甘蔗山藍等ヲ栽培スルニ至レリ

商工業輸出入ノ實況

本島商家ハ漸ク五六戸有之候得共重ニ每航海内地ヨリ日用物品ヲ携帶シ停船中商賣ヲ營ムモノヨシテ恰モ露店ノ如シ富田伊三郎藤崎忠平ナルモノ定店ヲ開キテ常々諸物品ヲ販賣ス就中藤崎ナル者他店ノ品切ヲ待テ物價ヲ高クシ往々島民ヲ苦ム加フルニ本年八月

定期船ヲ汽船ニ改メ候處船少ニシテ荷物積殘リ夥多有之島民食料
 拂底ヲ奇貨トシ物價ヲ格外ニ騰貴セシムル有様ニ付一日藤崎等ヲ
 島廳ヘ召喚シ此際心得違無之様懇々説諭セシ故カ従前白米壹俵四
 圓以上五圓位マテニ賣リシモノ目下金三圓五拾錢貸賣三圓八拾錢
 ナリト云フ近頃魚類野菜類販賣店ヲ開クモノアリ限リアル人口ト
 其収益ノ如何ハ暫ク措キ需用者ノ爲メ大ニ便利ヲ與ヘタリ

附テ云本年八月中東京田中平三郎外二名小笠原島會社ナル者ヲ
 設立シ八月便ニテ役員二名渡航スルノ際漁船小ニシテ荷物積込
 便ヲ得サリシト雖モ途中暴風雨ニ遭遇セントニ依リ一名ハ下田
 ヨリ歸京シ一名ハ渡航シタレモ前頭ノ次第ニテ未タ開店ニ至ラス

工業者ハ是迄大工六七人木挽七八人桶職壹人ナリシカ本年八月便
 ニテ鍛工壹名渡航稍ヤ島民ニ便スト雖モ何分賃錢ノ高價ニハ殆ト

當惑ノ姿ナリ而シテ職工一日ノ賃錢六拾錢トス此外天然古木ヲ以
 テ花立火鉢側並ニ鯉ノ木ノ葉ヲ以テ敷物等ヲ製スルモノ一二人ア
 リ皆ナ航海毎ニ内地ヘ輸出シテ僅カニ一家ノ經營ヲ爲スモノナリ

本島物産未タ起ラス輸出入ノ平均ヲ得サルハ誠ニ致方ナキ次第而
 シテ一ケ年凡ソ壹萬圓以上ノ輸入有之候處輸出ハ漸ク五千圓乃至
 七千圓ニ過キス然ルニ本年ハ差シタル風災ナキト島民舉テ殖産ニ
 注意セシ故カ砂糖五千圓綿二千餘圓輸出ノ見込有之候之レヲ以テ
 將來ヲ推セハ其平均ヲ得ル敢テ難キニアラサルヲ信ス

附テ云本島輸入ノ重ナルモノハ白米酒等ノ日用物品ナリ而シテ
 父島一ケ年一人平均白米四俵ニ當ルモ母島ハ一ケ年一人平均同
 二俵ニ當ルト云フ是レ母島ハ農事ニ勉勵シ甘薯玉蜀黍等ヲ以テ
 食料ヲ補充スレハナリ

父母兩島屬島實況

兄島 父島大村ノ北二里三丁ニアリ周圍五里貳町地勢高突ナル斷
岩ニシテ地味甚々宜シカラズ明治十七年和栗萬作ナルモノ野陣ケ
濱ニ移住シ四畝餘歩ノ畑地ヲ開墾ス同十九年父島人民共有牧場ト
シテ官ノ允許ヲ得テ山羊拾頭ヲ放養セシ處漸ク増殖シテ現今百有
餘頭アリト云フ

弟島 父島大村ノ北二里三十町ニアリ地勢外凸内凹地味沃饒樹木
鬱蒼最モ農牧ニ適ス明治十三年宮内多平始メテ七町餘歩ノ畑地ヲ
開墾ス然レモ其後耒耜ヲ入レズ全ク荒廢ニ屬ス同十八年長谷川常
三郎牛拾五頭ヲ放牧ス現今其數貳拾四五頭アリ同十九年天海惣吉
移住本年八月二階堂民郎モ亦移住シ専ラ農事ヲ勉ム唯鹿害多ク作
物ノ結果充分ナラズト云フ

西島 父島大村ノ西一里貳拾町ニアリ周圍三拾四町四面絕壁地質
惡シク樹木少シ明治拾六年歸化人「ジョーシ、ゴンサー」フロスパレ
ツワー「貳人」ニテ綿羊五頭ヲ放チシカ皆斃死ス同十八年山羊數頭ヲ
放チ同十九年牛七頭ヲ放チ現今山羊七拾頭牛拾頭アリ

嫁島 父島大村ノ北拾三里拾五町ニアリ周圍壹里貳拾町地勢斷崖
絕壁殆ント攀ツヘカラス樹木少ク萱菘ノ類稍ヤ茂生ス明治十八年
頃扇玉爲吉山羊數頭ヲ放チシ由ナレモ今其跡ヲ見ス到底農事ニ適
セス僅カニ山羊ヲ牧スルニ足ラン

媒島 父島大村ノ北拾六里壹町ニアリ周圍壹里三十町地勢稍ヤ弟
島ニ類ス一小灣アリ小舟ヲ入ル、ニ足ル加之地味肥沃樹木能ク茂
生ス明治十六年田中鶴吉始メテ山羊拾五頭豚二十頭ヲ放チ爾來從
者五人ヲ留メ専ラ牧農之業ヲ勉メシム現今建物四棟宅地壹反貳畝

步畑地貳町餘步山羊凡ソ六十頭豚凡ソ二百頭アリ常ニ魚獸肉ヲ食
 シ日々其業ヲ勵ム頃日粗糲ノ機具ヲ以テ天日製鹽ヲナス其性質如
 何ハ知ラサレ共外面ノ觀察ヨリスレハ却テ田中鶴吉ノ所製ニ勝ル
 カ如シ

聳島 父島大村ノ北十八里二町半ニアリ周圍二里廿三町ニシテ山
 高カラス海上ヨリ之ヲ望メハ一平地ニ異ナラス故ニ一名平島ト云
 フ地味頗ル肥ヘ草木亦多ク最モ牧場ニ適ヌ明治十四年田中鶴吉リ
 ソコロソ種羊六頭牛五頭ヲ携ヘ此嶋ニ移住ス爾來從者七八ヲ留メ
 專ラ牧農ヲ勉メシム現今建物十棟宅地五反五畝步畑地三町六反步
 牛三拾五頭羊四拾頭山羊凡ソ三百頭豚凡ソ五百頭アリ常ニ魚獸肉ヲ
 食シ銳意其業ヲ勉ム本島モ亦天日製鹽ヲ試ム其結果頗ル美ナリト
 雖モ色澤ハ少シク煤島製ニ劣ルカ如シ

附云田中鶴吉本年六月中突然米國へ渡航シ三五年ノ後ニアラサ
 レハ歸朝セズ煤聲兩島ニ留ルモノ之レヲ聞キ必ス落膽離散セン
 一チ慮リシニ勇氣前日ニ倍シ益其業ヲ勉ム頃日兩島申合セ同人
 不在中ハ島中產物ヲ輸出シテ機具其他ノ雜費ニ充テ十分維持ヲ
 ナスト云フ

平島 母島沖村ノ南一里十七町ニアリ周圍一里三町地勢殆ント丘
 陵ヲナス樹木少ク雜草多シ從前ハ歸化人「フレデリック、ロース」ノ
 拜借地ナリシカ今春ヨリ母島人民共有牧場トナセリ現今牛一頭七
 面鳥數羽アリ

姉島 母島沖村ノ南二里五町ニアリ周圍一里廿七町四面絶壁ナリ
 ト雖地質稍肥ヘ草木亦茂生ヌ本年六月宮本元治齋藤金次郎ノ二人
 「メリノ」種羊二十餘頭ヲ携ヘ此島ニ移リシカ故アリ同九月退去

ス然レハ羊種ノ成育他ニ比スレハ頗ル宜シ曾テ田中鶴吉ノ放牧セ
シ豚數頭現在スト云フ

右ノ外數島アリト雖モ未タ實地踏査セス故ニ略ス

(完)

明治二十一年七月三日刊行

禁發賣

明治二十一年七月七日出版

編輯者

東京府小笠原島廳

印刷者

警視廳監獄石川島分署

